株式会社 オプトラン

2026年12月期3Q(7～9月)の連結決算説明会

2026年12月期3Qの連結概要とガイダンス

2026年11月10日

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

将来の見通しに関する記述

ロ 「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた」対応について

当社は「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた」対応方針として、中期経営目標において「親会社株主に帰属する当期純利益率15%以上」、「ROE（自己資本利益率）10%以上」、「連結配当性向30%以上」、などを定めています。キャッシュ・アロケーションは株主価値の向上にむけて、安定配当と機動的な自己株式取得を行う方針。持続的な成長を見据え、研究開発、設備投資、事業提携やM&Aなどを戦略的に実施する予定です。

当社は1999年8月に光学薄膜成膜装置企業として創業。光通信事業領域のDWDM（高密度波長分割多重）用光部品向けの蒸着装置を祖業として、スマートフォン、自動車や光通信関連の蒸着装置やスパッタ装置など光学薄膜成膜装置で事業を拡大させています。2026年からは第2次創業として、成膜関連事業を軌道に乗せ、光学薄膜装置・材料企業に事業領域を拡大し、今後はシリコンフォトニクス事業を立ち上げ、光電融合企業へ進化する計画です。

ロ 将来の見通しや東証株価指数（TOPIX）改革の対応について

本資料には、「将来の見通しに関する記述」が含まれています。この記述には、当社の事業と市場における予想される成長と動向、業界の見通しと需要動向、当社の投資と成長戦略、新製品と新技術の開発、現在および今後の事業見通しに関するものが含まれます。今後、さまざまな外部要因・内部要因の変化により、予想・計画・見通しと大きく異なる可能性がありますが、更新・修正を行う義務を負うものではありません。

また、日本取引所グループ（JPX）は2024年9月に東証株価指数（TOPIX）の新たな改革案を公表し、2028年7月までに段階的に採用銘柄数を絞り込む予定にしています。継続基準では、年間売買代金回転率0.14以上、かつ浮動株時価総額の累積比率上位97%以内を同時に満たすことが必要になります。当社は選定基準への適合に向けて対応を進めています。

ロ 為替リスク、相互関税や半導体・原油の価格上昇の対応について

当社の主力製品である製造装置の輸出売上高は、米ドル建ての依存度（7割程度）が高いことから、米ドルの為替変動の影響を受けます。製造原価は、中華圏生産の依存度が高いことから（主力工場は埼玉県鶴ヶ島本社、中国上海工場など）、中国元の変動の影響を受けます。業績見通しの為替前提は、過去の実績を踏まえて想定し、為替変動影響の軽減を目指しています。

輸出先は中華圏の依存度が高いものの、最終需要先は米国を中心に世界的に広がっています。相互関税の影響に対応して、生産・開発体制の強化に向けて、インド、日本、ベトナム、中華圏などでの拠点拡充を計画。2026年12月期の為替前提は148円/ﾄﾞﾙ、22円/元。営業利益感応度（年換算）は1円/ﾄﾞﾙの円高で▲1.5億円、0.1円/元の円高で＋1億円の影響があります。半導体・原油の価格上昇は直接的な影響が軽微ですが、間接的な影響を注視しています。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

2026年12月期3Qの連結概要とガイダンス

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

受注高、業績と株価バリュエーション

図表1：受注高、業績及び1株当たり指標および株価バリュエーション

決算期	受注高		受注残高	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主当期純利益		EPS	DPS	PER	PBR	株価	営業利益率	ROE
	百万円	前年比%	百万円	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%	百万円	前年比%	円	円	倍	倍	期末、円	%	%
年間																		
2017/12 期	52,527	252.5	44,170	33,386	124.0	7,327	207.9	7,095	249.5	4,815	228.3	134.6	40.00	21.3	5.18	2,860	21.9	29.0
2018/12 期	39,820	-24.2	39,228	44,763	34.1	10,690	45.9	10,993	54.9	7,746	60.9	187.6	55.00	9.0	2.48	1,680	23.9	30.6
2019/12 期	36,062	-9.4	32,468	42,822	-4.3	10,879	1.8	11,031	0.3	9,102	17.5	216.7	60.00	13.9	3.67	3,015	25.4	29.0
2020/12 期	28,606	-20.7	23,583	37,491	-12.4	8,628	-20.7	8,610	-21.9	6,797	-25.3	159.1	50.00	13.3	2.29	2,109	23.0	18.3
2021/12 期	35,435	23.9	28,126	30,892	-17.6	7,025	-18.6	7,901	-8.2	6,330	-6.9	146.8	50.00	16.2	2.23	2,376	22.7	14.8
2022/12 期	41,553	17.3	36,947	34,304	11.0	7,449	6.0	8,763	10.9	6,890	8.8	159.0	50.00	14.1	1.87	2,242	21.7	14.0
2023/12 期	20,316	-51.1	24,219	36,807	7.3	9,752	30.9	6,051	-30.9	4,632	-32.8	106.1	50.00	15.4	1.27	1,631	26.5	8.5
2024/12 期	28,841	42.0	24,159	32,406	-12.0	6,570	-32.6	8,191	35.4	6,351	37.1	145.3	52.00	13.0	1.35	1,888	20.3	11.0
2025/12 期	41,210	42.9	31,290	33,861	4.5	3,335	-49.2	3,203	-60.9	2,960	-53.4	74.2	54.00	25.7	1.33	1,910	9.8	5.1
2026/12 期 予				38,200	12.8	6,200	85.9	7,400	131.1	5,600	89.2	140.5	56.00	12.7		1,791	16.2	
半期														年換算				
2024/06 1H	14,920	20.2	21,659	16,678	-20.3	3,942	-40.8	4,417	3.6	3,173	-8.6	72.4	26.00	13.9	1.45	2,020	23.6	10.9
2024/12 2H	13,922	76.1	24,159	15,728	-1.0	2,628	-14.9	3,774	111.1	3,178	173.7	72.7	26.00	13.0	1.35	1,888	16.7	11.1
2025/06 1H	17,493	17.2	26,114	13,850	-17.0	1,108	-71.9	1,112	-74.8	1,106	-65.2	27.0	27.00	30.2	1.24	1,633	8.0	3.9
2025/12 2H	23,717	70.4	31,290	20,011	27.2	2,227	-15.3	2,090	-44.6	1,854	-41.7	47.1	27.00	20.3	1.33	1,910	11.1	6.7
2026/06 1H	30,731	75.7	48,021	15,854	14.5	1,087	-1.9	717	-35.5	-17	-	29.1	28.00	64.3	1.59	3,740	6.9	-0.05
2026/12 2H 予				22,346	11.7	5,113	129.6	6,683	219.7	5,617	203.0	111.4	28.00	8.0	0.77	1,791	22.9	-
四半期														年換算				
2024/03 1Q	9,552	10.9	24,058	11,298	24.7	3,965	51.7	4,325	138.3	3,284	134.1	75.0	0.00	6.9	1.54	2,068	35.1	23.7
2024/06 2Q	5,368	41.2	25,979	5,380	-54.6	-23	-	92	-96.2	-110	-	-2.5	26.00	-	1.45	2,020	-0.4	-0.8
2024/09 3Q	6,232	103.0	21,659	8,511	6.3	2,377	24.8	2,549	137.9	2,267	261.1	51.5	0.00	8.6	1.32	1,778	27.9	15.6
2024/12 4Q	7,690	59.1	24,159	7,217	-8.3	251	-78.8	1,225	71.0	911	70.9	21.2	26.00	22.3	1.35	1,888	3.5	6.3
2025/03 1Q	8,645	-9.5	23,954	7,905	-30.0	756	-80.9	740	-82.9	809	-75.4	19.3	0.00	19.7	1.13	1,526	9.6	5.6
2025/06 2Q	8,848	64.8	26,114	5,945	10.5	352	-	372	303.4	296	-	7.7	27.00	53.0	1.24	1,633	5.9	2.1
2025/09 3Q	10,453	67.7	27,211	9,860	15.8	1,727	-27.3	1,475	-42.1	959	-57.7	24.0	0.00	17.3	1.24	1,664	17.5	6.8
2025/12 4Q	13,264	72.5	31,290	10,151	40.7	499	98.7	615	-49.8	895	-1.7	22.4	27.00	21.3	1.33	1,910	4.9	6.2
2026/03 1Q	14,820	71.4	39,788	6,969	-11.8	511	-32.3	287	-61.3	-83	-	-2.1	0.00	-	1.28	2,572	7.3	-0.5
2026/06 2Q	15,912	79.8	48,021	8,885	49.4	576	63.5	431	15.8	66	-77.8	1.7	28.00	566.7	1.59	3,740	6.5	0.4
2026/09 3Q	15,012	43.6	51,323	11,241	14.0	1,888	9.3	5,531	275.0	5,103	432.1	127.9	0.00	1.8	1.22	2,717	16.8	28.7

注：数値は百万円未満を四捨五入、予は期初計画、受注高は2022/12期以降が実質基準、2021/12期以前は為替影響を除く基準、2026/12期欄の株価は2026年11月6日終値、2025/12期為替（期中平均）は149.61円/ドル、20.81円/元、2026/12期前提は148円/ドル、22円/元。営業利益感応度（年換算）は1円/ドルの円高で▲1.5億円、0.1円/元の円高で＋1億円

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

決算ポイント

ロ　受注高（実質ベース）の2026年12月期3Qおよび4Qガイダンス

受注高は2026年12月期3Q（7～9月期）が前四半期比6%減（前年比44%増）ながら159億円と、社内計画100億円を59億円上回りました。前四半期比ベースでは、AIスマートフォン（スマホ関連）、光学部品の光通信関連が4割減と減速しましたが、EV/コネクテッドカー（自動車関連）や光学部品の半導体関連の貢献で下支えしています。受注残高は前四半期比7%増（前年比89%増）の513億円と増加しました。4Qは100億円程度を想定しています。

前四半期比ベースに事業分野を見ると、スマホ関連はカメラモジュール向け中心に減速しました。光通信関連は着脱式光トランシーバ（Pluggable Optical Transceiver）向けが顧客における半導体の調達難により需要が減退する一方、NPO（近接配置型光学モジュール、Near-Packaged Optics）やCPO（光電融合パッケージ、Co-Packaged Optics）向けへの需要シフトが始まり、新たな事業機会も顕在化しています。

自動車関連は中国におけるADAS（先進運転支援システム、Advanced Driver Assistance Systems）における都市NOA（ナビゲーション連動型高度運転支援機能、Navigate on Autopilot）の普及率上昇が貢献したと見ています。都市NOA普及率は2026年1月が17.1%、9月が30.4%（1～9月の累計出荷台数は330万台、同累計普及率が24.9%）。半導体関連ではDUV（深紫外：Deep Ultraviolet）半導体検査装置向けが寄与しています。

ロ　2026年12月期3Qの連結業績と持分法投資損益の概要

2026年12月期3Qは売上高が前年比14%増の112億円、営業利益が同9%増の19億円、経常利益が同275%増の55億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同432%増の51億円でした。売上高総利益率は元高の影響により、前年比2.4ポイント低下の36.0%となったが、未検収案件の回収が進展し、前四半期比では3.7ポイント改善しています。中国元（CNY）に対する円レート（期中平均）は前年比が＋2.57円/CNY、前四半期比が▲0.42円/CNY。

持分法投資利益は浙江晶馳光電科技（以下、晶馳光電、出資比率49%）、AIメカテック（2025年2月出資、同17.58%）、など持分法適用会社の投資利益が36.7億円と1Q、2Qの損失から改善しました。特に、晶馳光電はスマホ関連部品の量産が軌道に乗っています。営業外損益は1-3Q累計で33億円（持分法投資利益は34億円）と年間計画の12億円を上回っています。

ロ　2026年12月期3Q末の投資その他の資産と純資産の変動について

投資その他の資産は2025年12月期4Q末158億円から2026年12月期3Q末501億円に増加。主な内訳は、投資有価証券が4Q末 42億円から3Q末376億円に増加。これは、戦略的な出資先であるSeeYA Technology（出資比率 3.89%）が2026年3月25日に中国・科創版（STAR Market）に上場したことから、時価評価の影響が表面化しました。純資産は4Q末 576億円から3Q末889億円に増加しました。

SeeYA TechnologyはマイクロOLEDの大手企業。貸借対照表に対する同社影響は、その他投資評価差額金が4Q末31億円、1Q末 229億円、2Q末346億円、3Q末296億円。同社の株価（終値）はIPO 22.68元/株、1Q末 35.7元/株、2Q末51.3元/株、3Q末40.2元/株。同社株に関する売却制限期間（ロックアップ期間）は上場後1年です。一方、AIメカテックは投資有価証券に3Q末 33億円で計上、資本業務提携を踏まえて取得価額で評価しています。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

受注高、業績およびガイダンス

図表2：受注高、業績及び1株当たり指標・財務指標（単位：百万円、円、％、円/ﾄﾞﾙ）

決算期	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12	2024/12				2025/12				2026/12		
項目										予	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
受注高	52,527	39,821	36,062	28,606	35,435	43,124	24,080	32,345	40,993		11,136	7,301	4,192	9,716	7,700	8,106	10,956	14,231	15,466	17,118	14,543
受注高（実質）						41,553	20,316	28,841	41,210	56,000	9,552	5,368	6,232	7,690	8,645	8,848	10,453	13,264	14,820	15,912	15,012
受注残高	44,170	39,228	32,468	23,583	28,126	36,947	24,219	24,159	31,290		24,058	25,979	21,659	24,159	23,954	26,114	27,211	31,290	39,788	48,021	51,323
売上高	33,386	44,763	42,822	37,491	30,892	34,304	36,807	32,406	33,861	38,200	11,298	5,380	8,511	7,217	7,905	5,945	9,860	10,151	6,969	8,885	11,241
売上総利益	14,154	17,436	17,697	14,682	13,390	14,948	18,454	14,499	11,440		5,917	2,168	4,094	2,319	2,613	1,947	3,793	3,088	2,337	2,873	4,050
販売管理費	6,827	6,746	6,818	6,054	6,364	7,499	8,702	7,928	8,106		1,952	2,191	1,717	2,068	1,857	1,595	2,066	2,588	1,825	2,297	2,162
研究開発費	2,467	3,103	3,173	3,151	3,065	3,410	4,329	3,397	3,802	3,900	908	1,029	657	803	921	863	947	1,071	584	862	984
営業利益	7,327	10,690	10,879	8,628	7,025	7,449	9,752	6,570	3,335	6,200	3,965	-23	2,377	251	756	352	1,727	499	511	576	1,888
営業外収益	140	495	299	261	980	1,339	386	1,996	584		462	331	633	1,491	366	178	-16	56	148	208	3,631
持分法投資利益						207		1,195			71	56		1,068		93		54			3,670
営業外費用	372	192	147	280	104	25	4,086	376	716		102	216	462	518	381	158	236	-59	372	353	-12
持分法投資損失	52	148	123	41	81		10		127				0.2		40		234		201	73	
経常利益	7,095	10,993	11,031	8,610	7,901	8,763	6,051	8,191	3,203	7,400	4,325	92	2,549	1,225	740	372	1,475	615	287	431	5,531
税前利益	7,127	10,748	11,488	8,678	8,773	9,405	5,998	8,185	4,221		4,321	92	2,547	1,225	739	368	1,474	1,640	280	413	5,531
法人税等	2,309	3,001	2,386	1,874	2,440	2,512	1,325	1,807	1,375		1,030	165	251	361	-33	108	526	774	381	413	458
親会社株主当期純利益	4,815	7,746	9,102	6,797	6,330	6,890	4,632	6,351	2,960	5,600	3,284	-110	2,267	911	809	296	959	895	-83	66	5,103
1株当たり当期純利益	134.6	187.6	216.7	159.1	146.8	159.0	106.1	145.3	73.3	140.5	75.0	-2.6	51.5	21.5	19.3	7.7	24.0	22.2	-2.1	1.7	127.9
1株当たり配当金	40.0	55.0	60.0	50.0	50.0	50.0	50.0	52.0	54.0	56.0	0.0	26.0	0.0	26.0	0.0	27.0	0.0	27.0	0.0	28.0	0.0
1株当たり純資産	552.4	677.2	821.1	919.0	1,066.0	1,199.1	1,285.3	1,403.3	1,439.5		1,343.9	1,388.5	1,347.0	1,403.3	1,345.6	1,317.6	1,344.0	1,439.5	2,013.0	2,348.2	2,223.4
円/ﾄﾞﾙ（期末）	113.16	111.00	109.56	103.50	115.02	132.70	141.83	158.18	156.56	148.00	151.41	161.07	142.73	158.18	149.52	144.81	148.88	156.56	159.88	162.39	157.35
円/ﾄﾞﾙ（期中平均）	112.39	110.58	109.03	106.76	109.90	131.62	140.67	151.69	149.61	148.00	148.63	155.85	149.71	152.37	152.55	144.59	147.46	154.08	156.96	159.57	158.67
円/CNY（期末換算）	17.28	16.16	15.67	15.88	18.06	19.01	19.93	21.67	22.36	22.00	20.83	22.04	20.46	21.67	20.59	20.19	20.88	22.36	23.11	23.87	23.45
円/CNY（期中平均）	16.62	16.70	15.78	15.48	17.04	19.50	19.82	21.04	20.81	22.00	20.63	21.47	20.85	21.16	20.94	19.99	20.60	21.73	22.67	23.45	23.26
売上高総利益率	42.4	39.0	41.3	39.2	43.3	43.6	50.1	44.7	33.8		52.4	40.3	48.1	32.1	33.1	32.7	38.5	30.4	33.5	32.3	36.0
売上高販売管理費率	20.4	15.1	15.9	16.1	20.6	21.9	23.6	24.5	23.9		17.3	40.7	20.2	28.7	23.5	26.8	21.0	25.5	26.2	25.9	19.2
売上高研究開発費率	7.4	6.9	7.4	8.4	9.9	9.9	11.8	10.5	11.2	10.2	8.0	19.1	7.7	11.1	11.6	14.5	9.6	10.6	8.4	9.7	8.8
売上高営業利益率	21.9	23.9	25.4	23.0	22.7	21.7	26.5	20.3	9.8	16.2	35.1	-0.4	27.9	3.5	9.6	5.9	17.5	4.9	7.3	6.5	16.8
売上高経常利益率	21.3	24.6	25.8	23.0	25.6	25.5	16.4	25.3	9.5	19.4	38.3	1.7	29.9	17.0	9.4	6.3	15.0	6.1	4.1	4.8	49.2
法人税率	32.4	27.9	20.8	21.6	27.8	26.7	22.1	22.1	32.6		23.8	179.3	9.9	29.5	-4.4	29.4	35.7	47.2	136.0	100.0	8.3
売上高当期純利益率	14.4	17.3	21.3	18.1	20.5	20.1	12.6	19.6	8.7	14.7	29.1	-2.1	26.6	12.6	10.2	5.0	9.7	8.8	-1.2	0.7	45.4
棚卸資産回転日数	476.5	327.1	220.4	178.4	268.1	385.2	357.7	321.3	279.9		275.0	530.5	347.1	293.7	253.2	351.7	229.4	222.1	407.8	360.2	319.2
ROE（自己資本利益率）	29.0	30.6	29.0	18.3	14.8	14.0	8.5	11.0	5.1		23.7	-0.8	15.6	6.3	5.6	2.1	6.8	6.2	-0.5	0.4	28.7
DOE（株主資本配当率）	1.5	5.8	6.5	6.4	4.7	4.1	3.9	5.7	3.8												

注：会計は日本基準、数値は百万円未満を四捨五入して算出、1株当たり当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益に基づき算出、利益率の前年比％欄は前年比増減、DOEは年間配当総額÷自己資本×100、または配当性向×ROE、ROEは親会社株主に帰属する当期純利益÷平均自己資本×100、棚卸資産回転日数は売上原価基準

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

貸借対照表およびキャッシュ・フロー計算書

図表3：貸借対照表及びキャッシュ・フロー計算書の概要（単位：百万円）

決算期	2017/12	2018/12	2019/12	2020/12	2021/12	2022/12	2023/12	2024/12	2025/12	2024/12				2025/12				2026/12		
項目										1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q
資産の部																				
現金及び預金	19,894	15,741	26,970	22,723	32,274	34,923	33,054	32,531	31,442	33,329	32,193	30,967	32,531	29,571	27,784	30,211	31,442	35,676	39,101	37,043
受取手形・売掛金	3,199	6,417	3,902	9,426	5,627	7,423	4,882	4,355	5,283	3,206	4,353	4,518	4,355	3,540	4,116	4,518	5,283	4,747	5,745	6,442
貸倒引当金	-181	-420	-351	-344	-387	-550	-604	-595	-220	-504	-541	-489	-595	-569	-235	-234	-220	-267	-457	-379
棚卸資産	25,108	24,487	15,173	11,147	12,855	20,430	17,989	15,763	17,194	16,213	18,670	16,804	15,763	14,687	15,413	15,250	17,194	20,699	23,733	25,157
原材料及び貯蔵品	4,879	4,339	4,070	3,850	5,804	10,460	8,790	6,449	4,651	9,365	8,363	7,212	6,449	8,437	4,311	4,115	4,651	4,091	4,976	5,305
仕掛品	20,229	20,148	11,103	7,297	7,051	9,970	9,199	9,314	12,543	6,848	10,306	9,591	9,314	6,249	11,102	11,136	12,543	16,607	18,757	19,852
流動資産	52,256	48,142	47,194	44,572	53,145	65,401	57,632	54,572	56,776	55,184	57,372	54,410	54,572	49,143	48,826	51,499	56,776	62,794	70,630	70,906
有形固定資産	2,863	2,843	2,764	3,194	4,527	8,835	11,407	14,152	13,512	11,874	13,450	13,300	14,152	13,273	13,127	13,019	13,512	13,663	13,638	13,134
無形固定資産	81	66	66	822	677	541	424	210	34	381	339	259	210	148	94	39	34	33	42	61
投資その他の資産	1,226	4,593	6,486	5,740	6,326	8,139	9,029	12,505	15,824	9,521	10,322	9,321	12,505	15,113	15,034	15,216	15,824	42,713	56,320	50,052
投資有価証券	216	803	795	350	350	350	350	431	4,183	350	391	391	431	3,766	3,892	3,898	4,183	33,208	47,064	37,646
出資金	725	2,224	4,826	4,749	5,237	5,691	6,161	9,044	9,085	6,646	7,263	6,541	9,044	8,440	8,151	8,321	9,085	6,870	6,699	10,529
固定資産	4,170	7,502	9,315	9,755	11,529	17,515	20,859	26,868	29,371	21,775	24,111	22,879	26,868	28,535	28,255	28,274	29,371	56,409	70,000	63,248
資産合計	56,426	55,644	56,509	54,327	64,675	82,916	78,491	81,440	86,146	76,959	81,482	77,289	81,440	77,677	77,081	79,773	86,146	119,202	140,630	134,154
負債の部																				
支払手形・買掛金	7,303	1,653	2,735	1,703	3,246	4,785	1,284	1,083	4,239	2,326	1,848	1,657	1,083	1,793	2,238	2,343	4,239	3,525	3,842	3,822
短期有利子負債	9,193	757	510	489	472	414	406	414	410	403	402	402	414	414	413	412	410	407	0	5
契約負債	11,327	20,109	13,989	8,922	9,831	19,060	14,743	9,731	11,494	9,441	10,841	9,308	9,731	9,288	11,981	12,859	11,494	18,134	24,540	24,517
流動負債	32,038	25,923	19,826	13,655	17,057	28,400	19,097	14,766	19,882	14,812	16,895	14,630	14,766	13,753	16,948	18,158	19,882	25,555	32,238	32,424
繰延税金負債	978	1,251	1,079	642	1,181	1,929	2,021	2,625	3,266	2,174	2,385	2,239	2,625	2,450	2,544	2,769	3,266	7,452	8,615	6,999
長期有利子負債	433	234	165	81	16	5	8	4,649	4,995	8	6	5	4,649	4,463	4,414	4,616	4,995	5,217	5,446	5,418
固定負債	1,781	1,659	1,864	1,157	1,535	2,357	2,478	7,672	8,658	2,637	2,777	2,637	7,672	7,338	7,392	7,804	8,658	13,087	14,491	12,857
純資産	22,607	28,063	34,819	39,515	46,084	52,159	56,916	59,002	57,607	59,510	61,810	60,022	59,002	56,586	52,741	53,811	57,607	80,560	93,901	88,873
自己資本	22,597	28,052	34,819	39,488	46,070	52,141	56,316	58,689	57,381	58,881	61,114	59,339	58,689	56,363	52,571	53,624	57,381	80,319	93,693	88,715
その他の包括利益累計額	500	-334	-767	-693	2,056	3,188	5,182	8,709	11,104	6,654	8,697	5,787	8,709	6,597	6,288	7,457	11,104	35,194	48,183	39,219
その他有価証券評価差額金	6	5						698	3,087		-49	-49	698	661	641	668	3,087	26,013	37,797	29,557
連結キャッシュフロー											上期		下期		上期		下期		上期	
税前利益	7,127	10,748	11,488	8,678	8,773	9,405	5,998	8,185	4,221	-	4,413	-	3,772	-	1,107	-	3,114	-	693	-
減価償却費	258	252	250	282	484	698	991	1,221	1,201	-	475	-	746	-	628	-	574	-	594	-
営業活動によるキャッシュフロー	4,696	9,572	16,233	-535	10,686	8,561	3,180	5,050	8,529	-	1,353	-	3,697	-	5,336	-	3,193	-	7,356	-
有形固定資産取得	-1,821	-381	-150	-760	-940	-4,380	-3,116	-3,115	-989	-	-1,505	-	-1,610	-	-361	-	-629	-	-261	-
投資活動によるキャッシュフロー	-2,768	-2,964	-2,432	-1,048	376	-4,396	-3,599	-7,701	257	-	-1,618	-	-6,083	-	-2,288	-	2,544	-	839	-
フリーキャッシュフロー	1,928	6,608	13,801	-1,583	11,061	4,165	-419	-2,651	8,786	-	-265	-	-2,386	-	3,048	-	5,738	-	8,195	-
自己株式取得	0	0	-0.1	-0.2	-0.2	-0.1	-0.1	-4,794	-4,188	-	0	-	-4,794	-	-4,188	-	-0.2	-	0.0	-
配当金支払額	-333	-1,633	-2,279	-2,543	-2,145	-2,164	-2,174	-3,334	-2,163	-	-2,190	-	-1,144	-	-1,086	-	-1,077	-	-1,076	-
財務活動によるキャッシュフロー	12,447	-10,054	-2,359	-2,467	-2,735	-2,173	-2,207	-3,807	-6,258	-	-609	-	-3,197	-	-6,206	-	-52	-	-537	-

注：数値は百万円未満を四捨五入して算出、受取手形・売掛金は貸倒引当金控除後、有利子負債は借入金とリース債務の合計、契約負債は従来「前受金」で表記、契約負債とは、企業が財またはサービスの提供前に顧客から受け取った対価を指す、自己株式取得は2024/12期48億円（1株平均取得価格1,890円）、2025/12期42億円（同1,658円）、財務活動によるキャッシュフローには現金及び現金同等物に係る換算差額を含む

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

通期業績ガイダンスと領域別業界動向

□ 2026年12月期の通期業績ガイダンスとリスク要因

2026年12月期の連結通期業績は3Qまで終了していますが、為替148円/ﾄﾞﾙ、22円/CNYを前提とする従来計画を継続します。1-3Q累計は受注高（実質）が前年比64%増の457億円、売上高が同14%増の271億円、営業利益が同5%増の30億円、経常利益が同141%増の62億円、親会社株主に帰属する当期純利益が同146%増の51億円でした。年間業績計画に対する進捗率は、売上高が71%、営業利益が62%、経常利益が84%、当期純利益が91%。

光学領域の1-3Q累計受注高はスマホ関連が前年比21%増の116億円、自動車関連が同31%減の37億円、光学部品が同216%増の238億円に対して、売上高はスマホ関連が同65%増の122億円、自動車関連が同39%減の30億円、光学部品が同36%増の86億円。光学部品に占める光通信の受注高構成比は6割強（前年比6倍）を占めました。通期受注高は4Q次第ですが、9年ぶりに過去最高525億円（名目、2017年12月期）を超える可能性があります。

リスク要因は、世界的な半導体製造装置業界の活況による装置部品の供給不足ですが、様々な施策により納期の短縮を図り、リスク軽減に努めています。棚卸資産回転日数は1Q末408日、2Q末360日、3Q末319日と改善傾向にあります。持分法投資利益はスマホ関連部品を手掛ける晶馳光電の好影響が期待されますが、メモリ価格の上昇によるスマホ需要の減速を踏まえて、4Qの貢献を保守的に見ています。

□ AIスマートフォン事業領域の業界動向について

世界のスマホ販売台数は2026年1Qが前年比4.5%減、2Qが同11%減、3Qが同16.4%減と低調であり、4Qも2割程度の減速が予想されます。スマホの製造原価に占めるメモリコストの上昇により、スマホ企業は収益性が低下し、減産を余儀なくされています。スマホの販売台数は、市場平均によれば、2026年は前年比13.6%減の10.6億台、2027年も同1.9%減の10.4億台が予想されています。

当社のスマホ関連受注高は26/12期が前年比15%減の120億円を見込んでおり、27/12期はスマホ企業の高付加価値化に対応することで新規需要を取り込む方針です。光学薄膜成膜装置を活用するカメラモジュール関連事業は、持分法適用会社の晶馳光電が手掛けています。同社の出資比率は当社が49%、浙江水晶光電科技が51%。晶馳光電は26/12期3Q以降の本格量産により、持分法投資利益を通じた当社業績への貢献が予想されます。

□ 光通信事業領域の業界動向について

米国のハイパースケーラーの設備投資5社合計は、市場予想によれば、AI（人工知能）の急速な普及に備えるデータセンター（DC）の増強を踏まえて、2026年が前年比102%増の約7,590億ﾄﾞﾙ、2027年には同48%増の約1兆1,200億ﾄﾞﾙ。ところが、原油高、電力料金の高騰によるDC規制を求める世論の高まりにより、設備投資は抑制される可能性があります。ただ、AIの普及が進展すると見込まれるため、設備投資は高水準が継続すると予想されます。

計画中の施設を含むDCが使う全米電力消費量は519TWh/年と試算され、1億3,250万世帯の年間消費量の約35%に相当します。光インターコネクト市場は、電力効率向上への要求が急速に高まることから、プラガブル、LPO、NPO、CPOへの技術革新が進展すると予想されます。当社の光通信関連の26/12期受注高予想は前年比5.6倍の200億円ですが、27/12期以降は5つの基幹技術を連携させる計画で、周辺関連ビジネスを取り込む方針です。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

事業領域別受注高および売上高の詳細

図表4：事業領域別受注高及び売上高（単位：百万円、円/ﾄﾞﾙ、％）

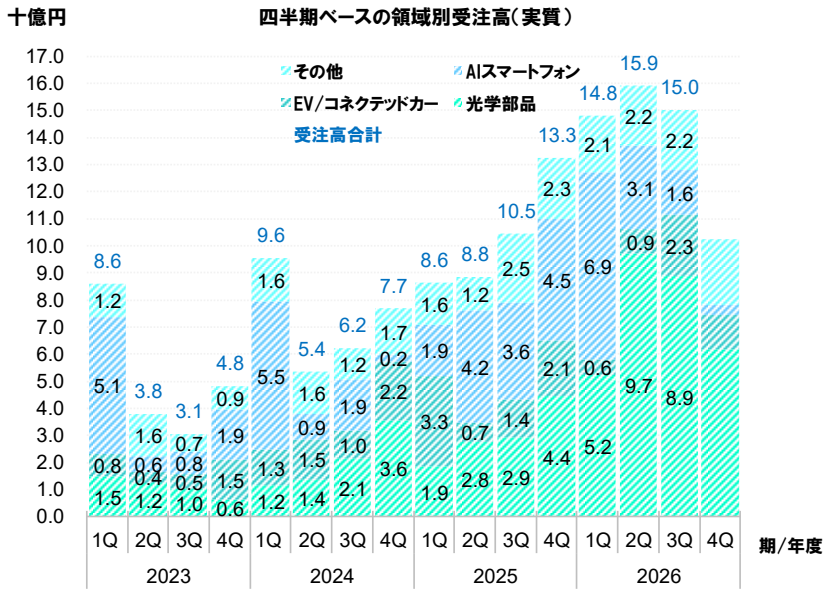
決算期	2023/12	2024/12	2025/12	2026/12	2023/12				2024/12				2025/12				2026/12				
項目					1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	Q/Q%	YoY%
受注高																					
光学領域	15,973	22,753	33,624	47,000	7,386	2,214	2,415	3,958	7,952	3,783	5,056	5,962	7,094	7,626	7,909	10,995	12,716	13,695	12,777	-6.7	61.6
AIスマートフォン	8,305	8,558	14,126	12,000	5,053	550	845	1,857	5,487	944	1,896	231	1,906	4,164	3,582	4,474	6,920	3,076	1,639	-46.7	-54.2
EV/コネクテッドカー	3,274	5,939	7,514	5,000	846	421	544	1,463	1,299	1,452	1,022	2,166	3,337	685	1,410	2,082	562	914	2,261	147.3	60.3
光学部品	4,393	8,256	11,985	30,000	1,486	1,243	1,026	638	1,165	1,386	2,139	3,566	1,851	2,778	2,917	4,439	5,234	9,705	8,878	-8.5	204.4
半導体光学融合・電子デバイス	1,826	2,785	4,758	4,100	455	948	52	371	615	141	950	1,079	838	366	1,835	1,718	935	1,071	999	-6.7	-45.6
パーツサービス・他	2,518	3,304	2,828	4,900	770	641	602	505	985	1,444	225	649	713	855	710	550	1,169	1,146	1,236	7.9	74.1
受注高小計	20,316	28,841	41,210	56,000	8,610	3,802	3,069	4,835	9,552	5,368	6,232	7,690	8,645	8,848	10,453	13,264	14,820	15,912	15,012	-5.7	43.6
為替・キャンセル影響	3,764	3,504	-217	1,384	953	2,283	1,229	-701	1,584	1,933	-2,040	2,026	-945	-742	503	967	647	1,207	-469	-	-
受注高合計	24,080	32,345	40,993	57,384	9,563	6,085	4,298	4,134	11,136	7,301	4,192	9,716	7,700	8,106	10,956	14,231	15,466	17,118	14,543	-15.0	32.7
ALD装置比率 (%)	7%	10%	2%	4%	6%	0%	7%	16%	24%	4%	0%	3%	0%	5%	2%	2%	1%	4%	2%	-2%	0%
新型装置比率 (%)	23%	39%	42%	19%	11%	29%	22%	39%	40%	28%	31%	51%	49%	46%	30%	43%	10%	17%	23%	6%	-7%
受注残高	24,219	24,159	31,290	50,475	37,447	31,670	27,960	24,219	24,058	25,979	21,659	24,159	23,954	26,114	27,211	31,290	39,788	48,021	51,323	6.9	88.6
売上高																					
光学領域	31,116	28,523	26,271	33,300	7,148	10,694	6,056	7,218	10,243	4,272	7,781	6,227	5,455	4,741	8,487	7,588	6,272	7,720	9,834	27.4	15.9
AIスマートフォン	20,489	18,549	10,226	15,500	3,690	8,317	3,996	4,486	7,686	1,916	5,289	3,658	1,427	1,445	4,544	2,810	3,094	4,849	4,301	-11.3	-5.3
EV/コネクテッドカー	3,069	4,917	6,740	4,000	1,392	391	431	854	1,174	1,582	1,273	889	1,793	1,263	1,908	1,776	1,156	958	917	-4.3	-51.9
光学部品	7,558	5,056	9,306	13,800	2,066	1,986	1,629	1,877	1,383	774	1,219	1,681	2,235	2,033	2,035	3,002	2,023	1,913	4,616	141.3	126.8
半導体光学融合・電子デバイス	3,300	1,261	3,829	2,400	1,260	536	1,354	151	233	554	63	411	811	708	618	1,692	285	574	773	34.6	24.9
パーツサービス・他	2,391	2,622	3,761	2,500	655	632	599	505	822	554	667	578	1,639	496	754	871	412	592	647	9.3	-14.3
売上高合計	36,807	32,406	33,861	38,200	9,063	11,862	8,009	7,874	11,298	5,380	8,511	7,217	7,905	5,945	9,860	10,151	6,969	8,885	11,241	26.5	14.0
ALD装置比率 (%)	34%	29%	3%	2%	22%	47%	42%	20%	30%	19%	26%	36%	0%	3%	5%	2%	0%	1%	3%	2%	-2%
新型装置比率 (%)	44%	42%	43%	32%	37%	53%	52%	32%	36%	32%	41%	59%	28%	37%	53%	48%	14%	32%	36%	4%	-17%
売上総利益	18,454	14,499	11,440	13,782	4,578	5,954	4,317	3,605	5,917	2,168	4,094	2,319	2,613	1,947	3,793	3,088	2,337	2,873	4,050	41.0	6.8
売上高総利益率 (%)	50.1%	44.7%	33.8%	36.3%	50.5%	50.2%	53.9%	45.8%	52.4%	40.3%	48.1%	32.1%	33.1%	32.7%	38.5%	30.4%	33.5%	32.3%	36.0%	3.7%	-2.4%
営業利益	9,752	6,570	3,335	5,000	2,614	4,049	1,905	1,184	3,965	-23	2,377	251	756	352	1,727	499	511	576	1,888	227.9	9.3
売上高営業利益率 (%)	26.5%	20.3%	9.8%	13.4%	28.8%	34.1%	23.8%	15.0%	35.1%	-0.4%	27.9%	3.5%	9.6%	5.9%	17.5%	4.9%	7.3%	6.5%	16.8%	10.3%	-0.7%
円/ﾄﾞﾙ（期末）	141.83	158.18	156.56	148.00	133.53	144.99	149.58	141.83	151.41	161.07	142.73	158.18	149.52	144.81	148.88	156.56	159.88	162.39	157.35	-3.1	5.7
円/ﾄﾞﾙ（期中平均）	140.67	151.69	149.61	148.00	132.42	137.49	144.63	147.86	148.63	155.85	149.71	152.37	152.55	144.59	147.46	154.08	156.96	159.57	158.67	-0.6	7.6
円/CNY（期末）	19.93	21.67	22.36	22.00	19.42	19.94	20.46	19.93	20.83	22.04	20.46	21.67	20.59	20.19	20.88	22.36	23.11	23.87	23.45	-1.8	12.3
円/CNY（期中平均）	19.82	21.04	20.81	22.00	19.35	19.56	19.94	20.44	20.63	21.47	20.85	21.16	20.94	19.99	20.60	21.73	22.67	23.45	23.26	-0.8	12.9

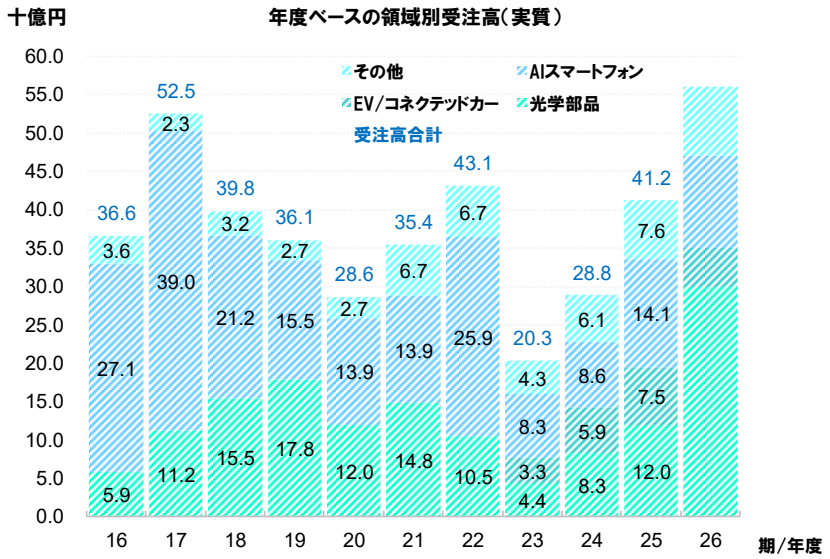
注：受注高の構成比、ALD装置比率、新型装置比率は為替影響を除くベース、為替、利益率、比率の前四半期比および前年比欄は増減幅を表示、AIスマートフォンは主にスマホ用カメラモジュール、EV/コネクテッドカーは自動車用カメラモジュール、光学部品は光通信、半導体、半導体光学融合・電子デバイスはAR関連向けの貢献度が高いです

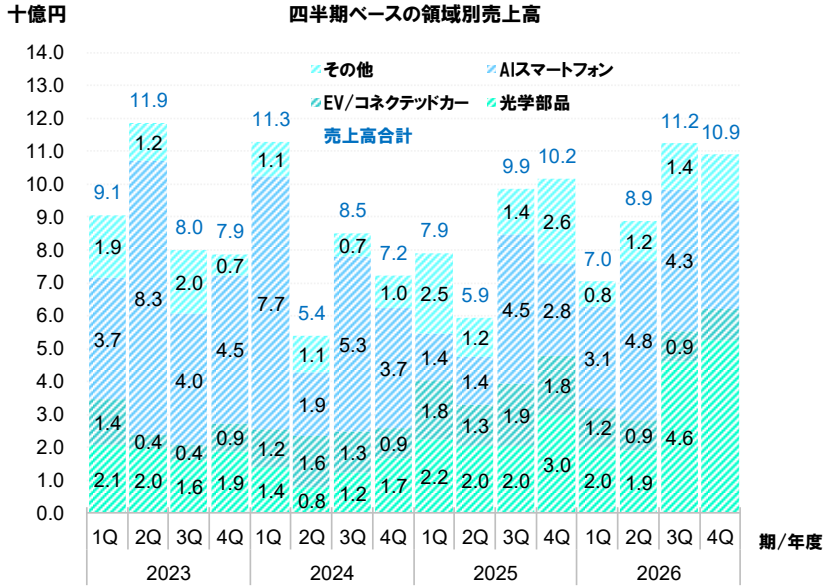
© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

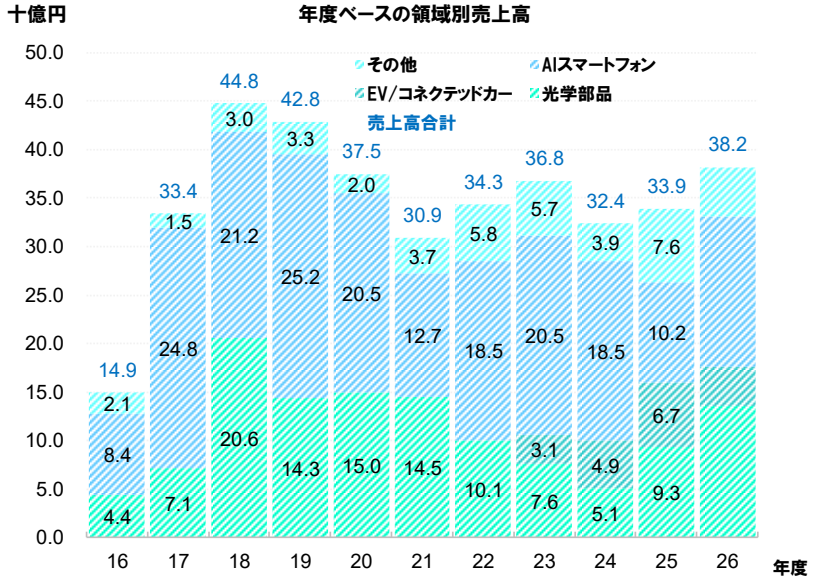
26/12期受注高は光学部品が牽引し、9年ぶりに過去最高を更新する可能性

図表5：事業領域別受注高と売上高





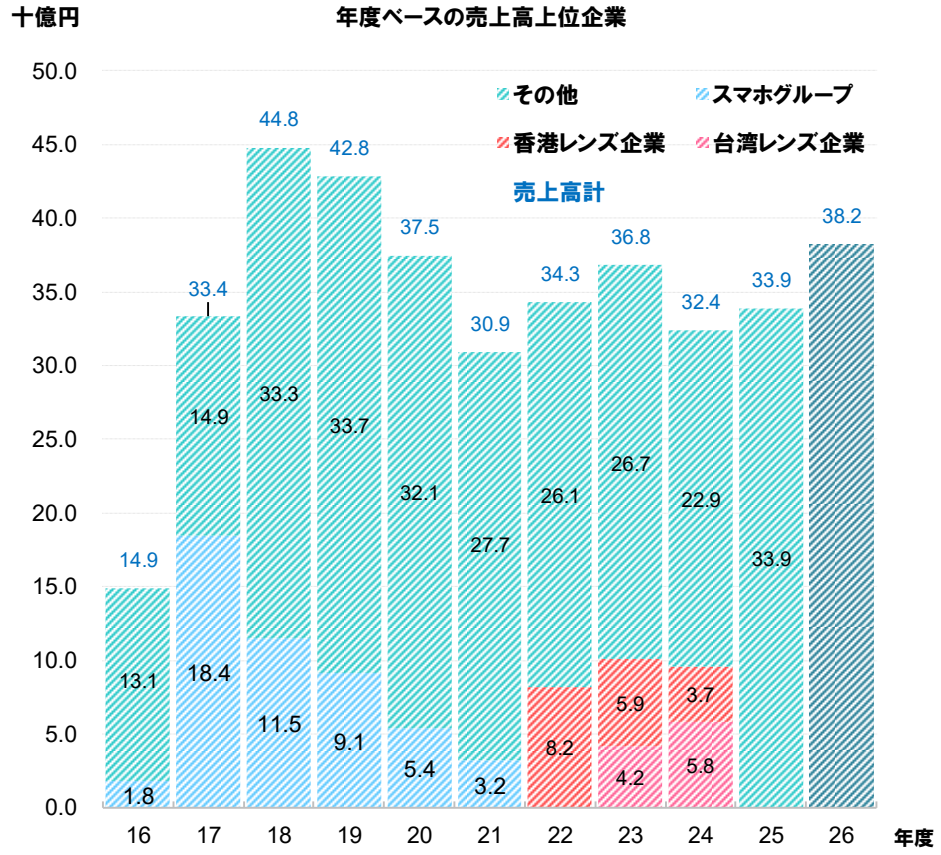


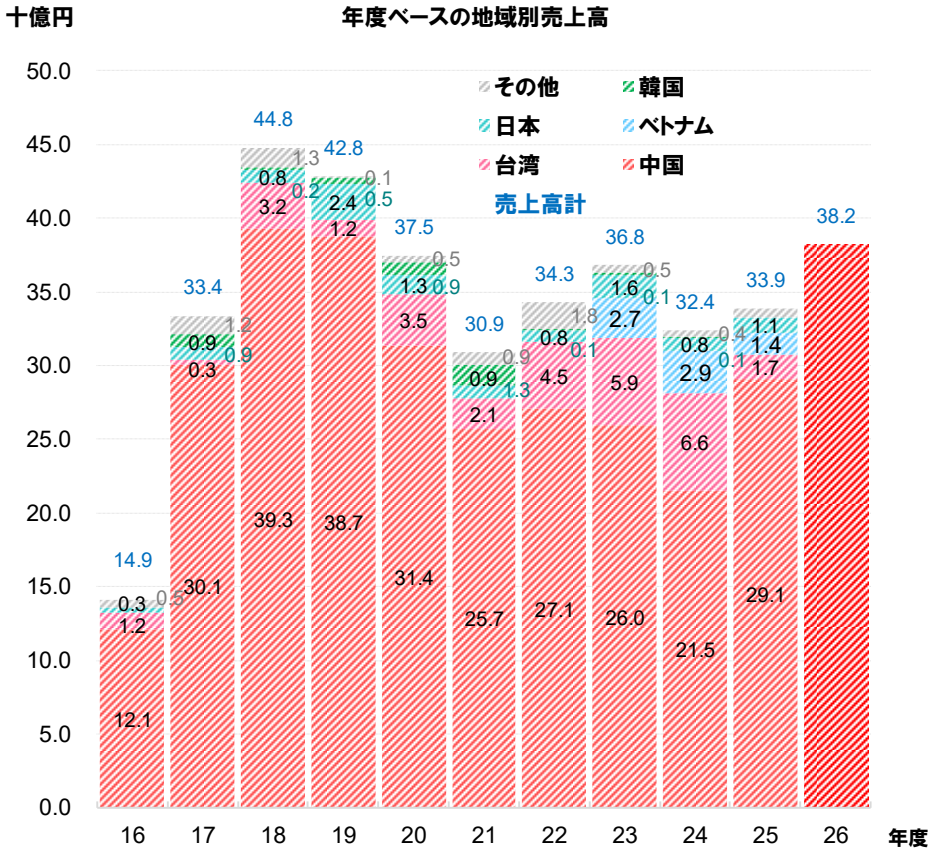


© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

インド子会社を設立、光学関連製品用装置の現地生産に備えて

図表6：地域別売上高および売上高上位企業の売上高





注：売上高上位は売上高構成比10%以上を示す。事業領域別売上高の光学領域には、AIスマートフォン（主にスマホ用カメラモジュール）、EV/コネクテッドカー（自動車用カメラモジュール向け）、光学部品（ミラーレスカメラ用レンズ、光通信用光部品向け）が含まれ、半導体光学融合領域は光電子、イメージセンサー、空間コンピュータ、電子デバイス領域はグリーンエネルギー、通信デバイス、MEMSデバイス向け、パーツサービス・他は消耗品・改造に分類しています。

出所：有価証券報告書より作成

スマホ企業によるインドでの生産体制の拡充が本格化しつつあります。インドの1人当たりGDPが2026～2027年に3,000ドルを超えると予想され、スマホの購買力が高まっています。当社はスマホサプライチェーンの変化に対応して、9月にインド子会社「Optorun India Private Limited」を設立しました。光学薄膜成膜装置及び真空成膜装置の製造・販売を予定しています。既に、保守サービス業務は開始しており、今後、業務を拡充する方針です。

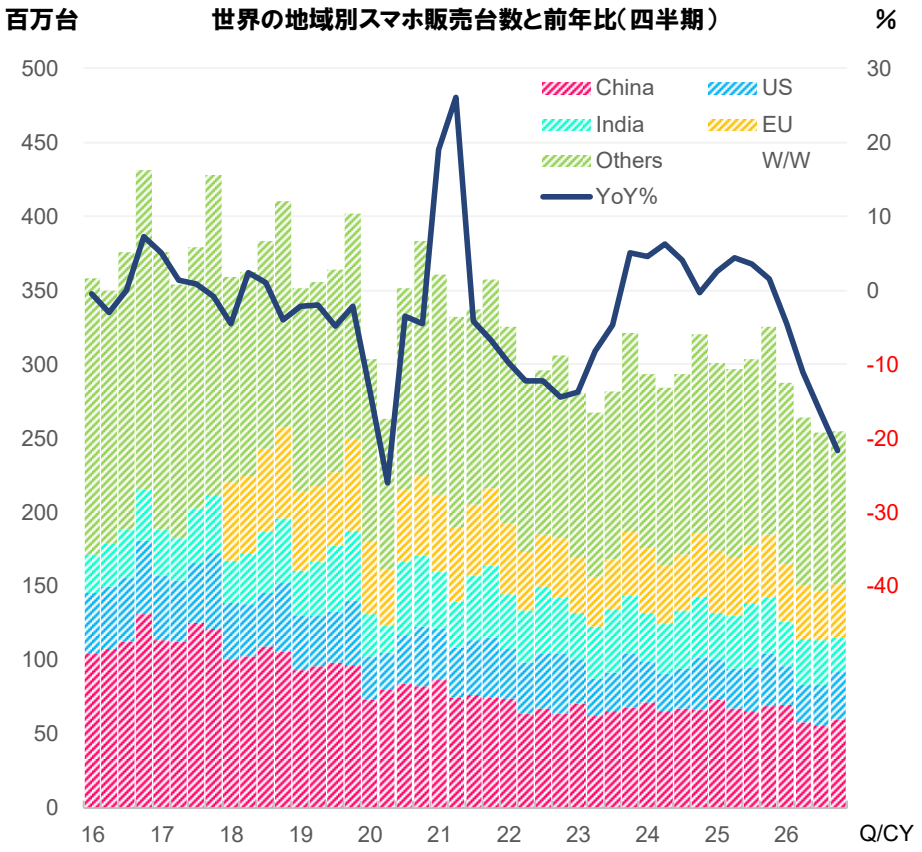
© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

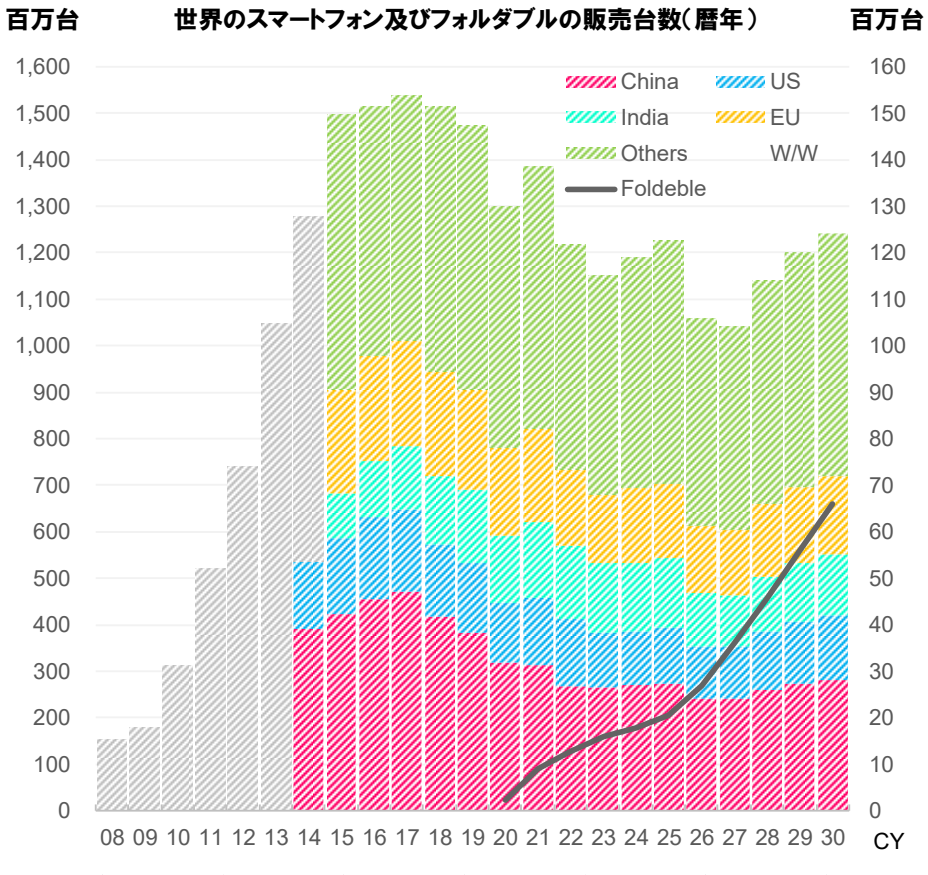
事業領域別分析と中期経営目標

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

スマホ需要はメモリコスト増で減退も、フォルダブル化や新たなカメラ機能で需要喚起

図表7：世界のスマートフォン（スマホ）販売台数と前年比





出所：当社作成、予想は市場平均

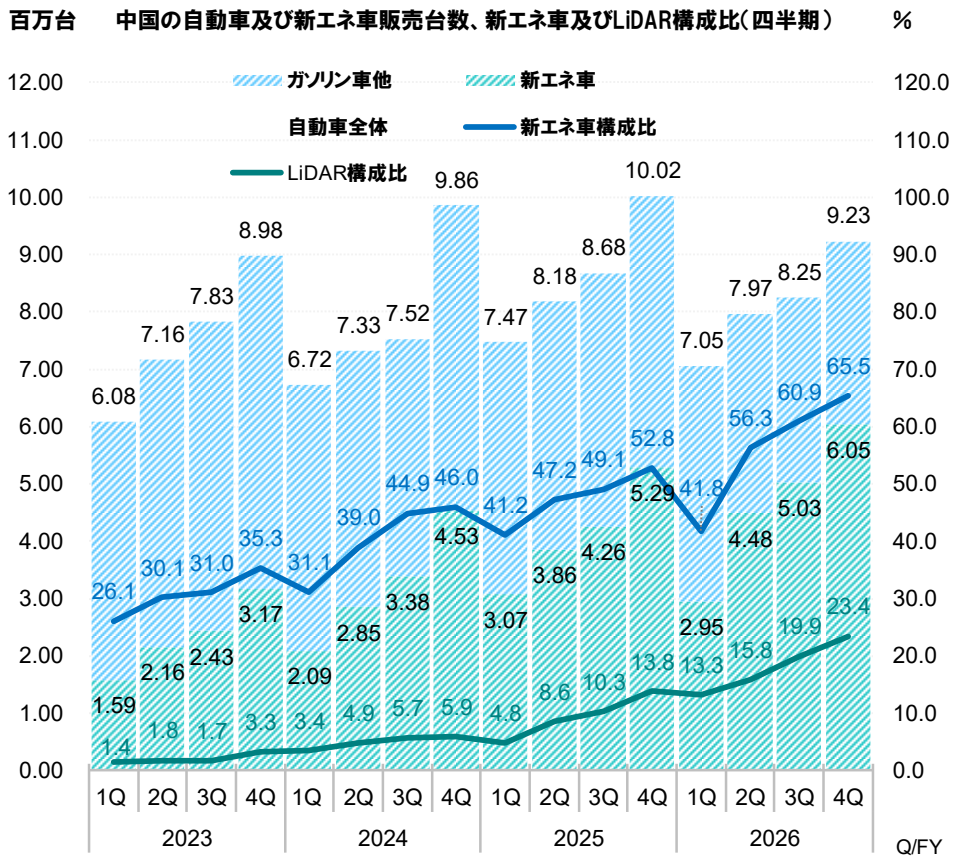
世界のスマホ販売台数は2026年1Qが前年比4.5%減、2Qが同11%減、3Qが同16.4%減と低調で、4Qも2割程度の減速が予想されます。スマホの製造原価に占めるメモリコストの上昇により、スマホ企業は収益性が低下し、減産を余儀なくされています。スマホの販売台数は、市場平均によれば、2026年は前年比13.6%減の10.6億台、2027年も同1.9%減の10.4億台が予想されています。ただ、スマホ企業はフォルダブル化や新たなカメラ機能を搭載したモデルの投入により、需要喚起を図ると見られます。

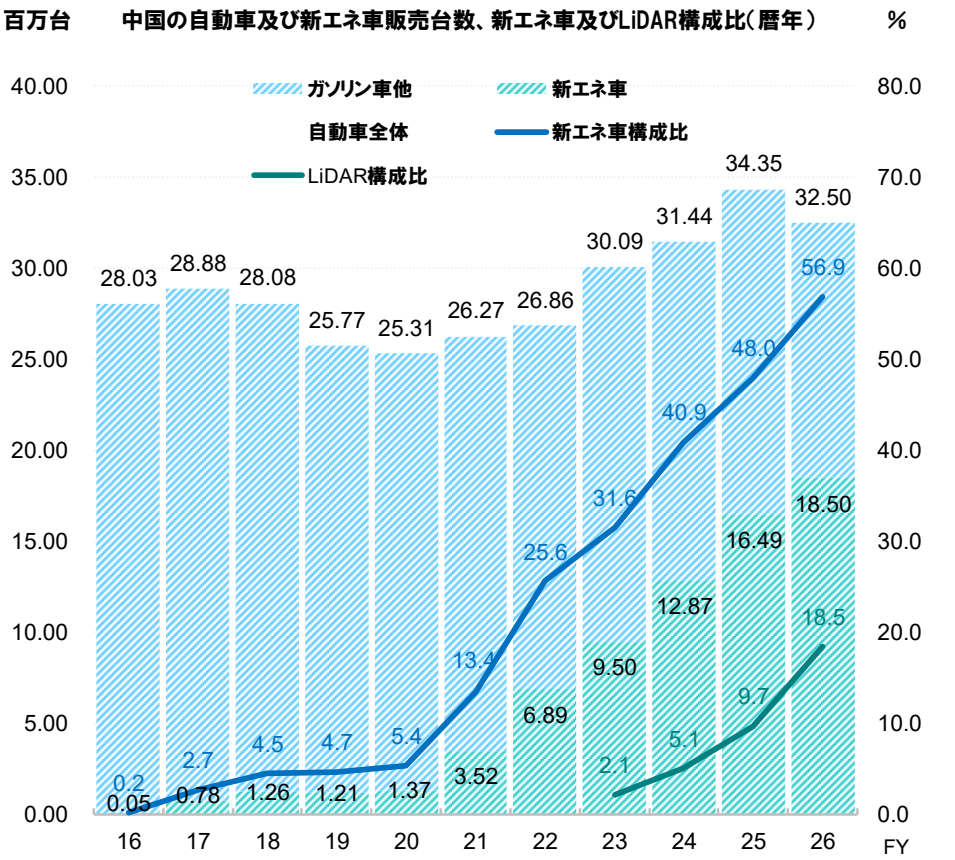
当社のスマホ関連受注高は26/12期が前年比15%減の120億円を見込んでおり、27/12期はスマホ企業の高付加価値化に対応することで新規需要を取り込む方針です。光学薄膜成膜装置を活用するカメラモジュール関連事業は、持分法適用会社の晶馳光電が手掛けています。同社の出資比率は当社が49%、浙江水晶光電科技が51%。晶馳光電は26/12期3Q以降の本格量産により、持分法投資利益を通じた当社業績への貢献が予想されます。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

LiDAR普及率の上昇に都市NOAが貢献

図表8：中国市場の自動車及び新エネルギー販売台数、新エネ車構成比と新エネ車に占めるADAS用LiDAR構成比





注：新エネルギー車はバッテリー電気自動車（EV、BEV）、燃料電池電気自動車（FCEV、FCV）とプラグインハイブリッド車（PHEV、PHV）を含める、LiDAR（ライダー：Light Detection And Ranging）はレーザー光を照射して、反射光の情報をもとに対象物までの距離や対象物の形などを計測する技術。LiDAR構成比は中国自動車販売台数に占めるADAS（先進運転支援システム）用LiDAR出荷台数。当社はADAS用ではCMOSイメージセンサー（CIS）向け成膜装置を提供している。

出所：中国汽車工業協会、LiDAR企業の数値などより当社作成、2026年4Q以降は市場予想

中国の2026年自動車販売予想台数は、市場予想によれば、前年比5%減の3,250万台、新エネ車が同13%増の1,850万台、ガソリン車他が同22%減の1,400万台と見られています。同販売台数に占めるLiDAR出荷台数は都市NOA（ナビゲーション連動型高度運転支援機能、Navigate on Autopilot）の貢献により、2025年の9.7%から2026年には18.5%へ上昇する見通し。当社の受注高は26/12期3Qが前年比60%増の26億円と好転しましたが、通年では1Qの減速が影響し、同33%減の50億円を見込んでいます。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

ADASは都市NOAでの高度化が進展

図表9：ADAS（先進運転支援システム、Advanced Driver Assistance Systems）の都市NOA・L2＋＋・L3の比較

	都市NOA（L2の高度な運転支援）	L2++（高度な運転支援）	L3（有条件自動運転）
	ナビに従って、市街地の複雑なシーンまで運転支援 （交差点・右左折・信号認識など）	高速道路＋一部の市街地で、 よりスムーズで人間に近い運転支援	特定の条件下でシステムが運転を担当 （ドライバーは監視不要。ただし、引継ぎ時には対応）
走行イメージ			
主な走行エリア（ODDの例）	一般道・市街地（都市部） ※一部、高速道路も対応	高速道路＋一部の一般道 （メーカーにより範囲が異なる）	認可された特定の道路・条件 （高速道路・都市高速・一部市街地など）
主な機能	・ナビ連動走行、車線変更、右左折、信号認識 ・交差点通過、歩行者・自転車対応 ・合流・分岐・追い越し　など	・高速道路での連続走行（高速NOA） ・自動車線変更、合流・分岐、追い越し ・一部市街地機能（メーカーにより異なる）	・システムが運転を担当（加減速・車線変更・分岐など） ・システム限界時にドライバーへ引継ぎ要求 ・条件内ではアイズオフ可能
自動運転レベル	L2	L2（L2+ / L2++ とも呼ばれる）	L3（公式な自動運転レベル）
センサー構成（代表例・個数の目安）	 ※構成はメーカー・車種により異なります	 ※構成はメーカー・車種により異なります	 ※構成はメーカー・車種により異なります
ドライバーの監視	常時必要（アイズオン・ハンズオン／ハンズオフ可）	常時必要（アイズオン・ハンズオン／ハンズオフ可）	条件内は不要（アイズオフ可。引継ぎ時は対応）
運転の主体	ドライバー（人）	ドライバー（人）	システム（条件内）
事故時の責任	基本的に運転者	基本的に運転者	システム側の責任が重要（法制度・保険が整備中）
主な搭載車種の例（中国市場）	Huawei ADS、XPeng XNGP、BYD 天神之眼 など （都市NOAは主にL2機能）	各社の高性能L2（L2+ / L2++）モデル	北汽、長安などのL3認可車（限定区域） ※2026年時点でごく少数

ACC（追従・加減速） → L2（車線維持＋運転支援） → 高速NOA（高速道路のナビ走行） → 都市NOA（市街地のナビ走行） → L2++（さらに高度） → L3（有条件自動運転） → L4（高度自動運転）

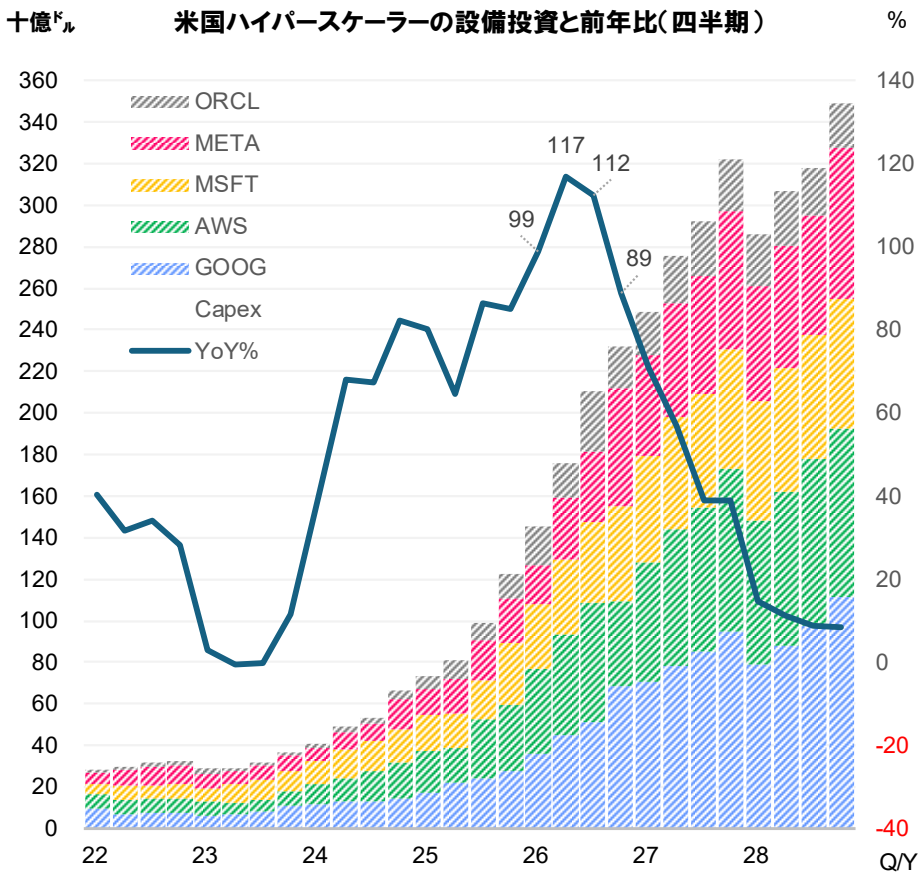
都市NOAやL2++は「どれだけ賢く運転支援できるか」の競争。L3は「運転の主体と責任がシステムに移る」という、技術・法規・安全設計の次元が異なるステージです。

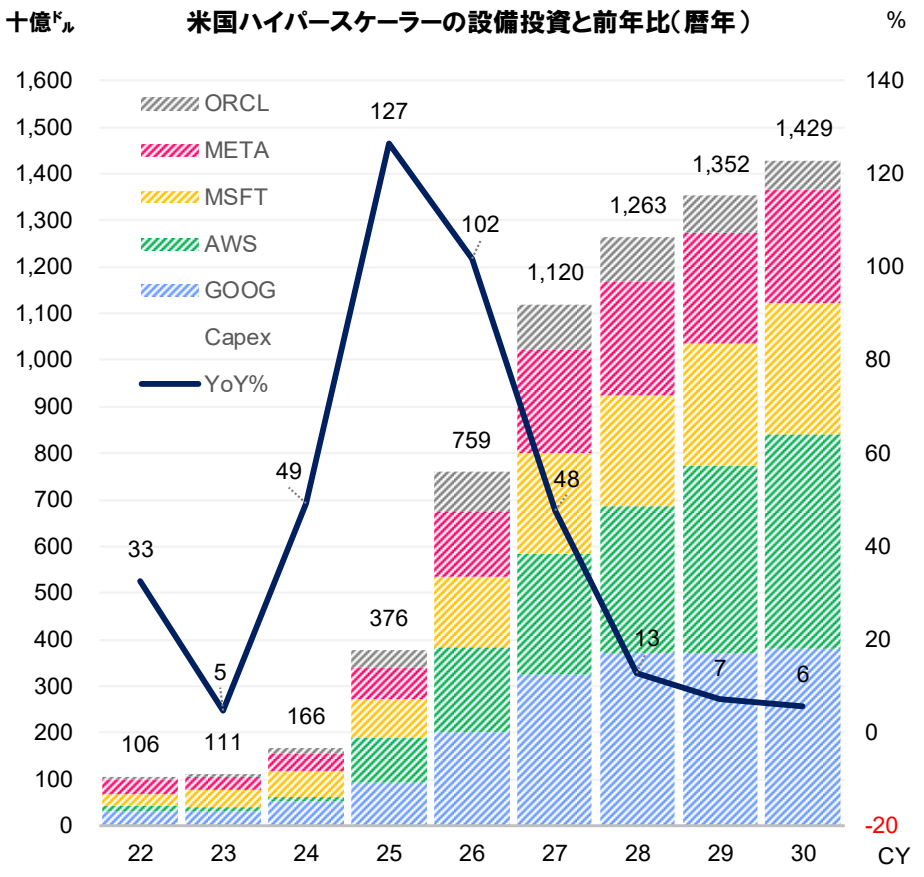
※センサーの個数は一般的構成例であり、メーカー・車種により異なります。　※画像はイメージです。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

米国ハイパースケーラーの設備投資は高水準が続き、技術革新が加速へ

図表10:米国のハイパースケーラーの設備投資と前年比





出所:会社資料より当社作成、予想は市場平均

米国のハイパースケーラーの設備投資5社合計(市場平均、支払いベース)は、市場予想によれば、AI(人工知能)の急速な普及に備えるデータセンター(DC)の増強を踏まえて、2026年が前年比102%増の約7,590億ドル、2027年には同48%増の約1兆1,200億ドルと、1兆ドル台に乗せる見通しです。原油高、電力料金の高騰によるDC規制を求める世論の高まりにより、設備投資は抑制される可能性があります。ただ、AIの普及が続くと見込まれることから、設備投資は1兆ドル規模の高水準が続く見通しです。

米国のDCは2026年10月時点で建設中・計画中を含めて4,771カ所。完成後のDCによる年間電力消費量は519TWh/年(計画中が346TWh/年と67%を占める)、全米1億3,250万世帯の年間消費量の約35%、約4,600万世帯に相当。光インターコネクト市場は、電力消費量の効率化を目的に、プラガブル、LPO、NPO、CPOへの技術革新が進展すると予想。当社の26/12期光通信受注高予想は蒸着装置を中心に前年比5.6倍の200億円ですが、27/12期以降は技術革新に対応して市場開拓を進める方針です。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

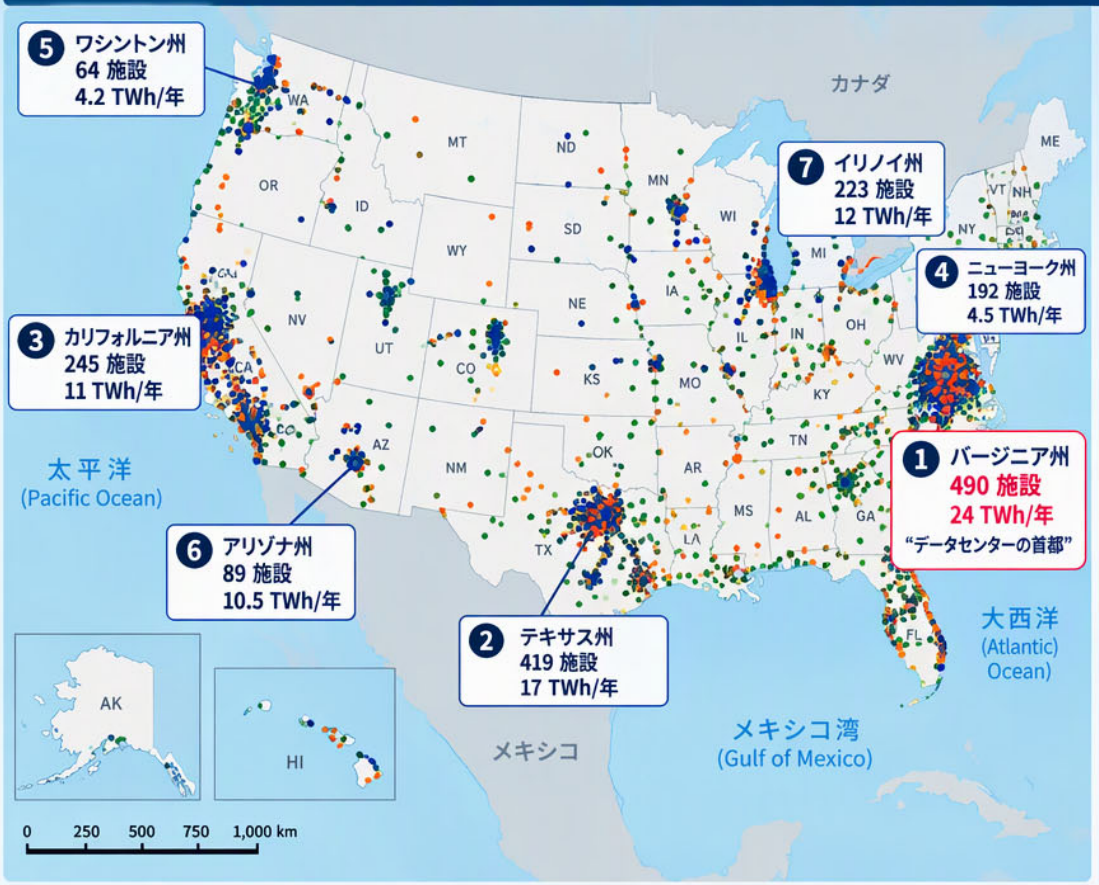
米国データセンターの電力消費量（計画を含む）は全米家庭部門の約35％に相当

図表11：米国のデータセンター分布と電力消費量

米国のデータセンター分布と電力消費量（2026年）

Data Centers in the United States (2026)

米国内の主要なデータセンター（稼働中・建設中・計画中）の立地と、州別のデータセンター数・電力消費量を示しています。バージニア州、テキサス州、カリフォルニア州などに大規模な集積が見られます。



データセンター数・電力消費量の上位州（2026年）

順位	州	データセンター数（施設）				電力消費量（TWh/年）			
		合計	稼働中	建設中	計画中	稼働中	建設中	計画中	合計
1	バージニア州	490	298	81	212	24.0	8.3	23.3	55.6
2	テキサス州	419	314	73	174	17.0	19.5	73.6	110.1
3	カリフォルニア州	245	289	6	48	11.0	0.2	2.0	13.2
4	ニューヨーク州	192	142	2	24	4.5	0.4	5.7	10.6
5	ワシントン州	64	94	7	16	4.2	0.0	1.4	5.6
6	アリゾナ州	89	107	16	53	10.5	1.4	9.3	21.2
7	イリノイ州	223	125	15	24	12.0	1.9	8.7	22.6
8	ジョージア州	232	112	22	98	9.0	1.2	18.6	28.8
9	オハイオ州	238	154	27	57	1.2	3.8	13.8	18.8
10	ペンシルベニア州	132	79	7	46	0.3	8.1	15.0	23.4

全米 合計（2026年）

データセンター数（施設）			電力消費量（TWh/年）		
4,771			519.3		
稼働中	建設中	計画中	稼働中	建設中	計画中
2,972	1,080	719	50.4	123.0	345.9

データセンターのステータス　稼働中 (Operational)　建設中 (Under Construction)　計画中 (Planned)

（出所）DCMap – US Data Centers by State (Oct 2026)　https://dcmap.us/states/

※ 電力消費量は各州の合計値（TWh/年）。四捨五入により合計が一致しない場合があります。

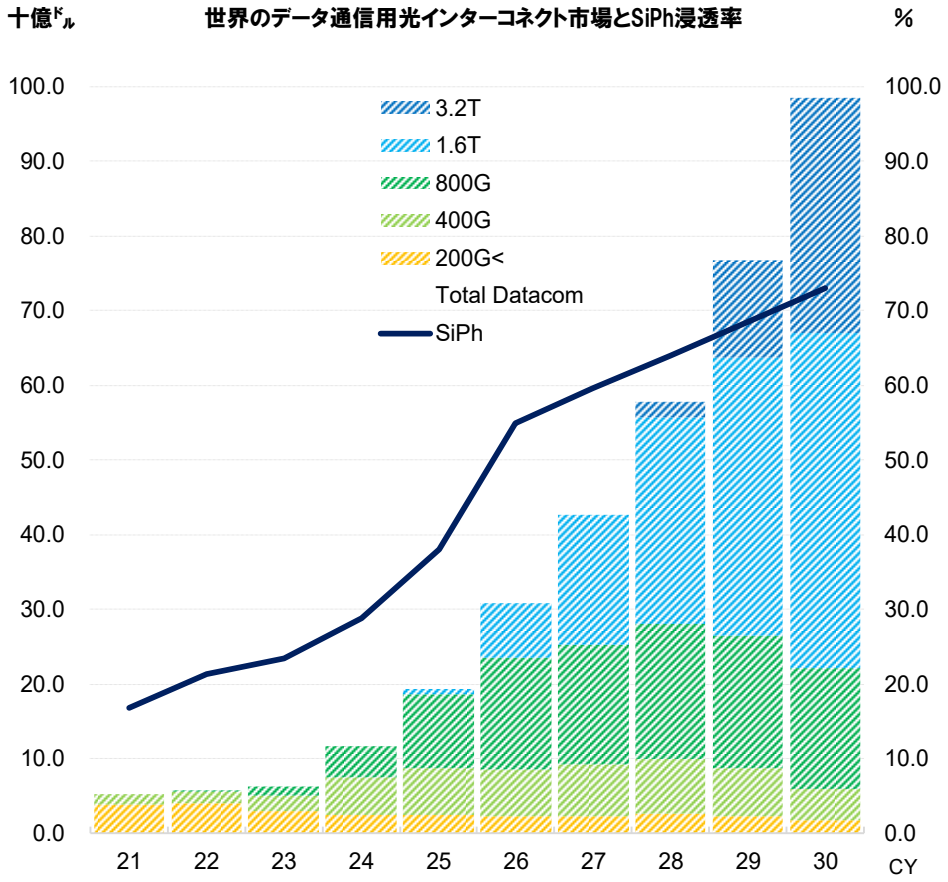
※ 地図上の位置は概略であり、すべてのデータセンターを正確に示すものではありません。

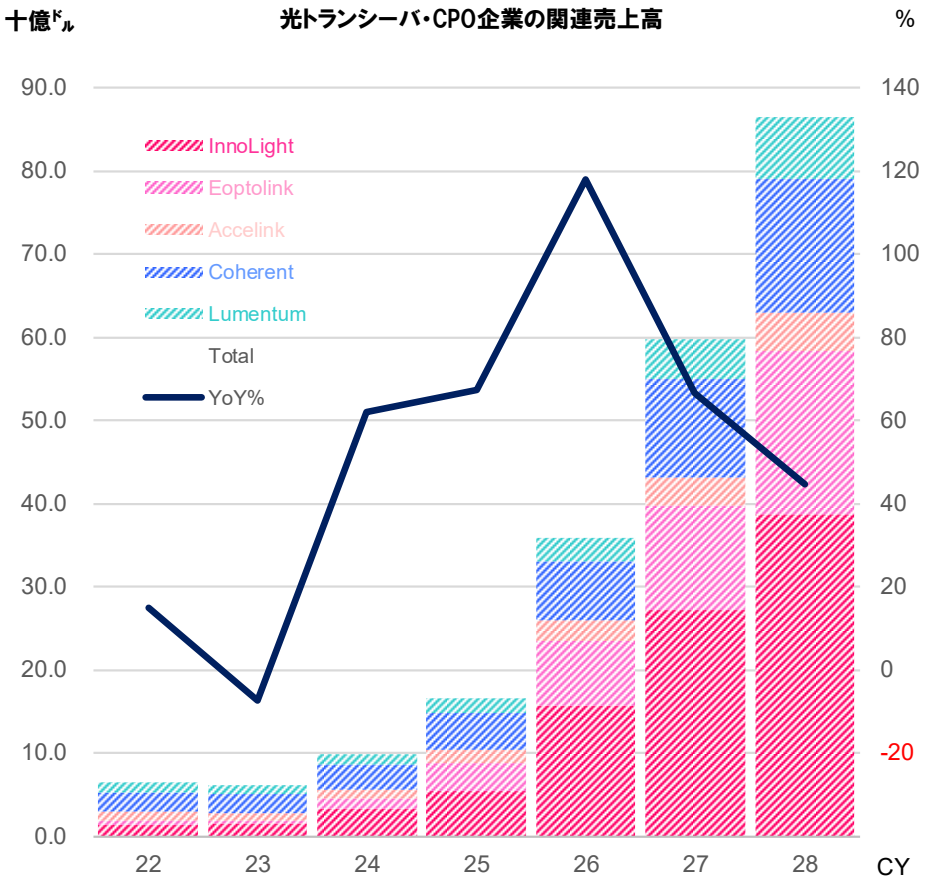
全米家庭部門の電力消費量は2025年約1,493TWh/年（1億3,250万世帯）
データセンターの電力消費量は稼働中、建設中、計画中を含めて519TWh/年
全米家庭部門の電力消費量に占めるデータセンター分は約34.8％に相当

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

光トランシーバ企業の関連売上高は市場予想より早いペースで成長

図表12：世界の伝送速度別データ通信用光インターコネクトおよびSiPh市場と光トランシーバ企業の関連売上高





出所：各種資料などより当社作成、企業別関連売上高予想は市場平均

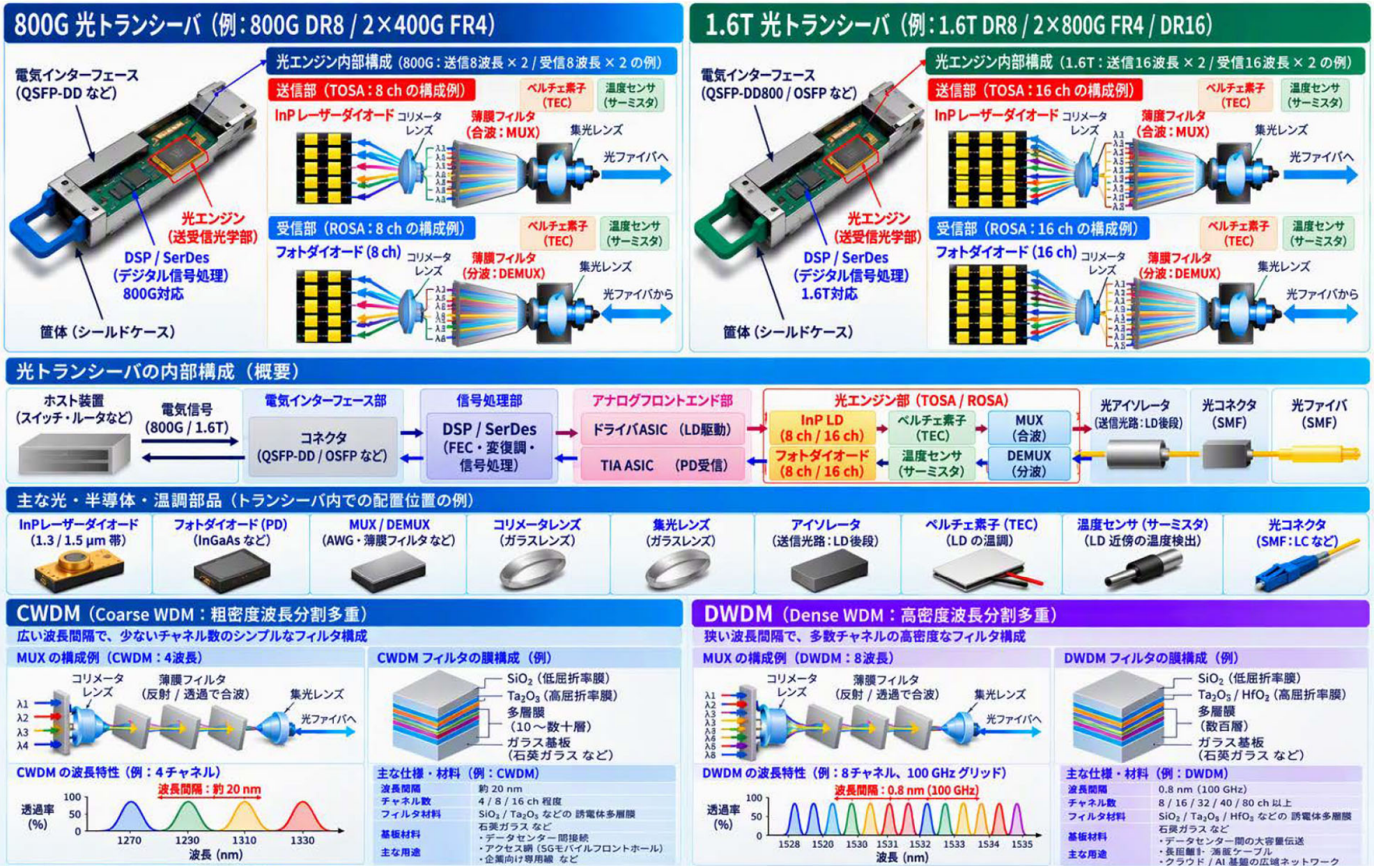
世界のデータ通信用光インターコネクトおよびSiPh（シリコンフォトニクス、SiPh技術を活用する製品）市場は、業界データによれば、2030年に1,000億ﾄﾞﾙに迫ると予想され、SiPhがその7割超を占めると見られています。光トランシーバ・CPO企業の関連売上高は、業界予想を上回るペースで成長し、2028年には800億ﾄﾞﾙを超える可能性があります。ところが、需要の急拡大により信号処理半導体などの主要部品の供給が需要に追い付かず、四半期ごとの受注動向は不安定になっています。

米国のハイパースケーラーの設備投資意欲は依然として旺盛ですが、原油高、電力料金の高騰によるDC規制を求める世論の高まりにより、設備投資は抑制される可能性も出ています。光インターコネクト市場は、電力消費効率向上への要求が急速に高まることから、プラガブル、LPO、NPO、CPOへの技術革新が進展すると予想されます。当社の光通信関連の26/12期受注高予想は前年比5.6倍の200億円ですが、27/12期以降は5つの基幹技術を連携させる計画で、周辺関連ビジネスを取り込む方針です。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

プラガブル光トランシーバは需要が急増、光部品・半導体・温調部品が不足

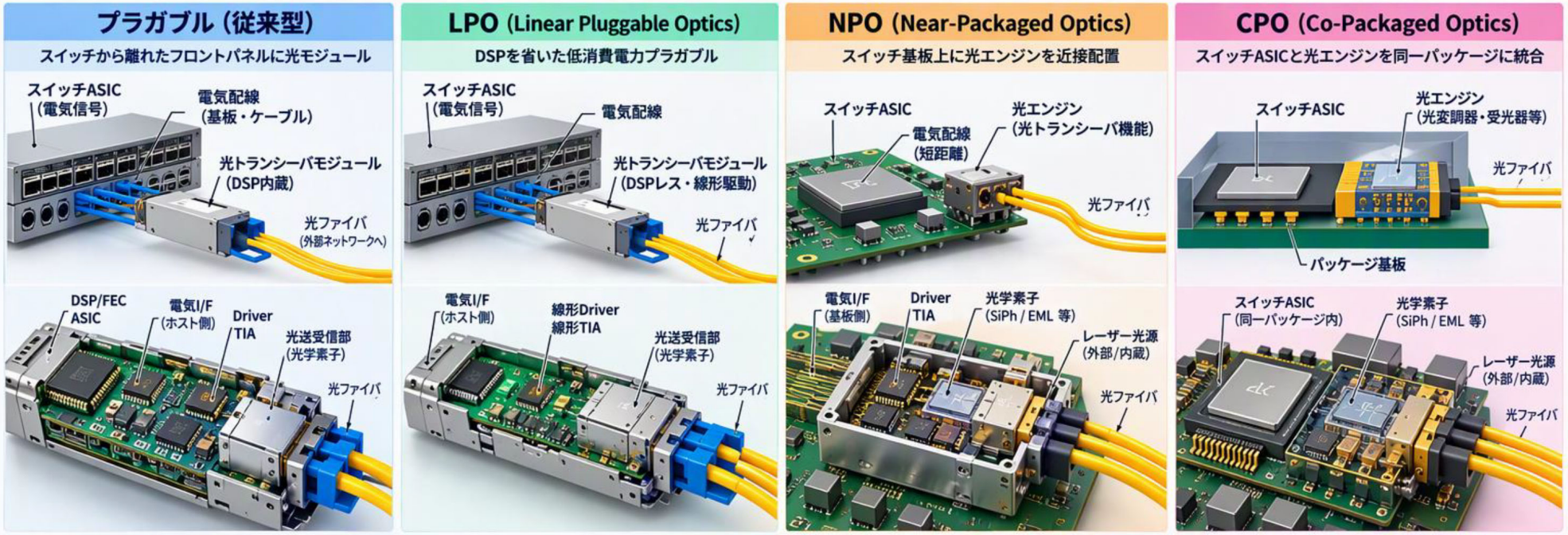
図表13：光トランシーバの内部構造と技術概要



© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

電力効率の向上を優先、光インターコネクトは電気から光へ、そしてASICへより近く

図表14:プラガブル・LPO・NPO・CPOの技術的な差異



実装位置	フロントパネル (筐体外)	フロントパネル (筐体外)	スイッチ基板上 (基板近傍)	同一パッケージ内で電気配線を最小化
光との距離	長い (基板・コネクタ・ケーブル)	長い	短い (数cm以内)	極めて短い (mmレベル)
DSP	あり (フルDSP)	なし (線形駆動)	あり/なし (実装により異なる)	あり/なし (アーキテクチャに依存)
主なフォームファクター	QSFP / OSFP / OSFP-XD	QSFP / OSFP (LPO対応)	専用光エンジン (基板実装)	パッケージ内光エンジン (外部からは不可視)
代表的な速度 (2025~)	400G / 800G (主流)、1.6T (量産中) 3.2T (開発中)	800G (拡大)、1.6T (量産中) 3.2T (開発中)	1.6T (量産中)、3.2T (開発・検証中) 6.4T (試作)	51.2T / 102.4T級スイッチ (商用化) 200T級 (開発中)
消費電力 (目安) ※800G比	1.0 (基準)	**0.5~0.6** (約40~50%低減)	**0.3~0.5** (大幅低減)	**0.2以下** (70~80%低減も)
レイテンシ	大きい (DSP処理あり)	小さい (DSPレス)	小さい	非常に小さい
保守・交換性	◎ 容易 (ホットスワップ)	◎ 容易 (ホットスワップ)	△ やや難しい (基板交換が必要)	× 困難 (光エンジンの交換は装置交換)
主な用途	データセンター間、スパイン・リーフ、 企業ネットワーク、広域	データセンター内の短距離 (~2km程度) AIクラスタのスケールアウト	データセンター内 (特にAIクラスタ) 高密度スイッチ、スケールアウト	超大規模AIデータセンター、 大容量スイッチ、将来のOptical I/O

注:Pluggable → LPO → NPO → CPOへの進化は、「光をASICに近づけていく進化」。Pluggable:光はASICから遠い、LPO:位置はASICから離れているが、DSPをなくして低電力化、NPO:光電変換部をASICの近くに、CPO:光電変換部をASICと同じパッケージにする。概念的には、電気配線が短くなる → 信号損失が減る → 消費電力を下げやすくなる → 帯域密度を高めやすくなる。CPOに近づくほど、実装、熱設計、歩留まり、交換・保守は難しくなる。図は公開情報をもとに当社作成。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

5つの基幹技術を連携し、次期光学薄膜装置ポートフォリオを構築

図表15：次期光学薄膜装置ポートフォリオ

次期光学薄膜装置ポートフォリオ

5つの装置技術で、膜形成から微細加工・性能補正までをカバー



蒸着	スパッタ	ALD	エッチング	トリミング
OTFC / NBPF / SPOC	HSP / OWLS / OCT	A1000PC / A500P / A800BS	DEG / DES / DEB	OGCT-8000
高精度光学多層膜	機能膜・電極形成	原子層レベルの保護	光導波路の微細加工	最終性能の補正
主要プロセス	主要プロセス	主要プロセス	主要プロセス	主要プロセス
AR・HR／WDM・TFF／レーザー膜	金属電極／TCO／圧電・機能膜	パッシベーション／バリア／ナノAR	SiPh導波路／ガラス／TFLN	膜厚補正／平滑化／表面活性化
重点市場	重点市場	重点市場	重点市場	重点市場
レーザー・光フィルター・光モジュール	SiPh PIC・TFLN・光エンジン	SiPh・CPO・高信頼光デバイス	SiPh・ガラス光回路・TFLN	光フィルター・接合・パッケージ
量産実績を持つ収益基盤	機能膜領域へ展開	微細化・3D化に対応	形状を光学性能へ転換	歩留まり・ばらつき改善

光デバイス製造の価値連鎖

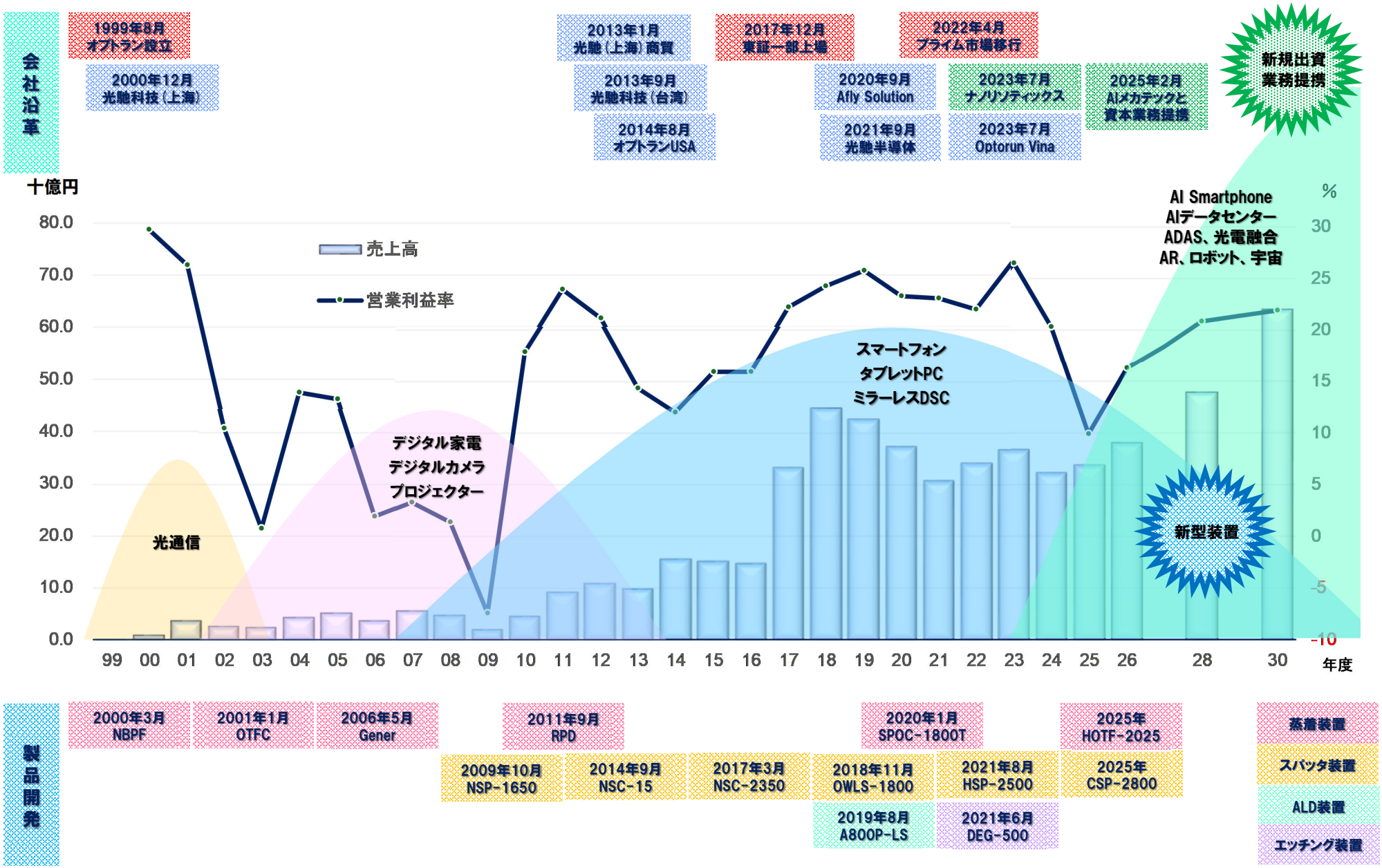
多層膜形成	機能膜形成	保護・界面制御	微細加工	補正・接合前処理

価値連鎖の意義：蒸着・スパッタ・ALD・エッチング・GCIBを連携させ、膜形成から微細加工・最終補正までを一貫してカバーすることで、光デバイスの性能・信頼性・歩留まり向上に貢献。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

会社沿革、製品開発、事業領域と業績

図表16：会社沿革、製品開発、アプリケーション需要と業績（売上高と営業利益率）



© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

光学薄膜装置の種類と原理

図表17：主な光学薄膜装置の種類と原理

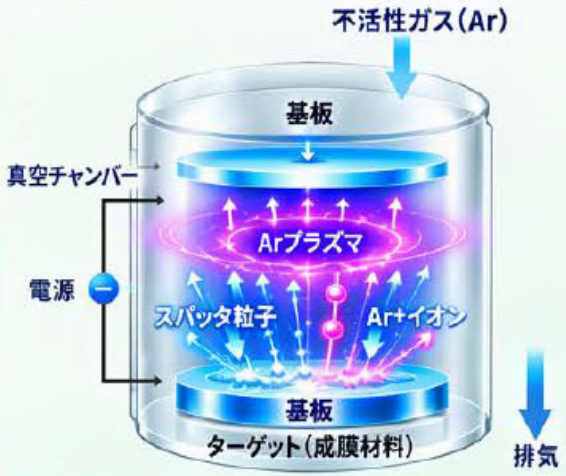
蒸着装置
EVAPORATION　加熱による蒸発・昇華



原理

仕組み	材料を加熱・蒸発させ、基板表面に付着させる
強み	高速成膜・シンプルな構造
留意点	複雑形状への均一成膜には制約

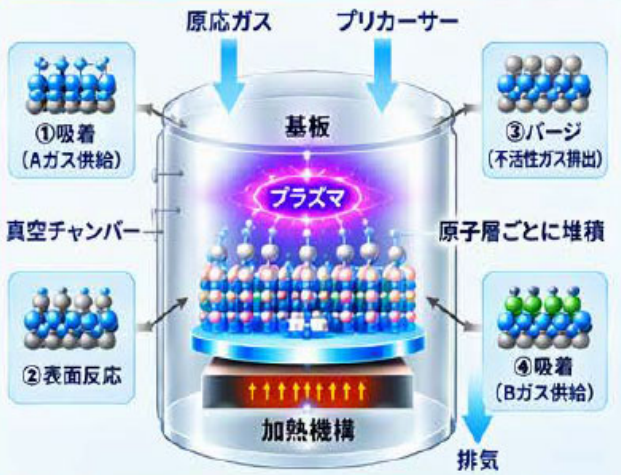
スパッタリング装置
SPUTTERING　イオン衝撃による成膜



原理

仕組み	Arイオンをターゲットに衝突させ、材料粒子を基板へ成膜する
強み	高密着・材料選択の幅が広い
留意点	装置・プロセス条件の最適化が必要

ALD（原子層堆積）装置
ATOMIC LAYER DEPOSITION　原子層レベルの層制御



原理

仕組み	原料ガスを交互に供給し、表面反応によって一層ずつ成膜する
強み	膜厚制御・均一性・複雑形状対応
留意点	成膜速度と生産性のバランス

経営上の評価軸（総合的な比較）	蒸着	スパッタリング	ALD
成膜速度	◎	○	△
密着性	△	○	○
膜厚制御	○	○	◎
複雑形状対応	△	○	◎

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

光学薄膜装置の事業領域

図表18：主な光学薄膜装置の事業領域

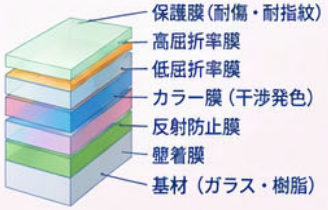
スマートフォンの加飾膜

美しいデザインと高い耐久性を両立し、
プレミアムな質感と使いやすさを実現



加飾膜を施した
スマートフォンの外観例

加飾膜の構成例



主な機能・効果
- 鮮やかな色彩・高級感のある外観
- 耐傷性・耐指紋性の向上
- 反射の低減で見やすさ向上
- 薄型・軽量でデザイン自由度が高い

その他の応用例
- タブレット・ウェアラブル端末
- ノートPC・スマートウォッチ

反射防止フィルム（ARフィルム）

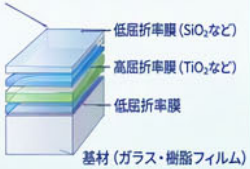
光の反射を抑え、見やすく快適な視認性を提供



フィルムなし
（反射で見えにくい）

反射防止フィルムあり
（クリアで見やすい）

反射防止膜の構成例

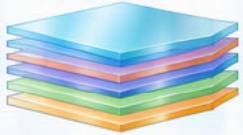


主な機能・効果
- 外光の映り込みを低減
- 高い透過率で鮮明な表示
- 指紋や汚れの付着を抑制
- 屋外でも見やすい視認性

主な用途
- スマートフォン・タブレット
- テレビ・PCモニター
- 車載ディスプレイ・サイネージ
- カメラ用保護フィルター など

光学薄膜技術

光の反射・透過・吸収・
干渉を精密に制御



多層膜設計×材料技術×プロセス設計
で最適な光の機能を実現

自動車

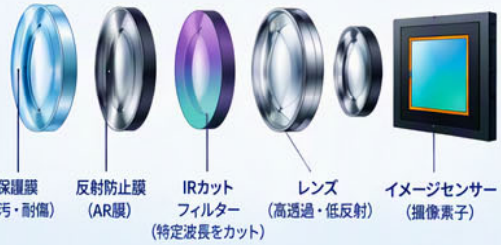
安全性・快適性・デザイン性の向上に光学薄膜が貢献



主な機能・効果
- 日射の熱をカットし快適な車室環境
- 高反射膜で視認性・安全性を向上
- HUD用ビームスプリッタで情報を重畳表示
- 高級感のある内外装デザインを実現・ブランド向上
- ヘッドアップディプレイ(HUD)
- 車載ディスプレイ
- 内外装の加飾パネル など

イメージセンサーの光学部品

レンズ・フィルター・IRカットフィルターなどの薄膜で、
高感度・高画質な撮像を実現



主な機能・効果
- 不要な光のカットで色再現性向上
- 反射低減でゴースト・フレアを抑制
- 高い透過率で感度向上
- 薄型・高精度な光学設計を実現

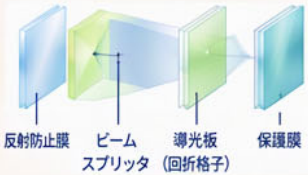
主な用途
- スマートフォンカメラ
- デジタルカメラ・監視カメラ
- 車載カメラ・産業用カメラ
- 医療・計測用イメージング など

AR/VR・ウェアラブル

薄膜が、よりリアルで快適な没入体験を支える



AR/VR用光学部品の例

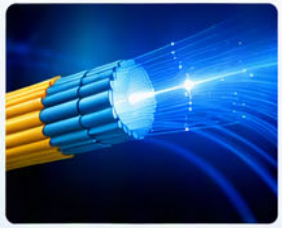


主な機能・効果
- 高透過・低反射でクリアな視界
- ビームスプリッタで映像を重畳表示
- コンパクトかつ高性能な光学系を実現
- 長時間使用でも快適な装着感

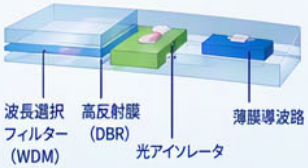
主な用途
- ARグラス・VRヘッドセット
- スマートグラス・スポーツ向けウェアラブル
- 産業支援・教育・エンタメ など

光通信

大容量・高速・低損失な通信を、薄膜で実現



光通信デバイスの例



主な機能・効果
- 特定波長の選択・分離（WDM）
- 高反射・低損失で信号を効率的に制御
- 安定した偏光制御・ノイズ抑制
- 高速・大容量通信の実現

主な用途
- データセンター・5G/6Gネットワーク
- 海底光ケーブル・長距離通信
- 光トランシーバー・光スイッチ
- 量子通信・次世代光ネットワーク など

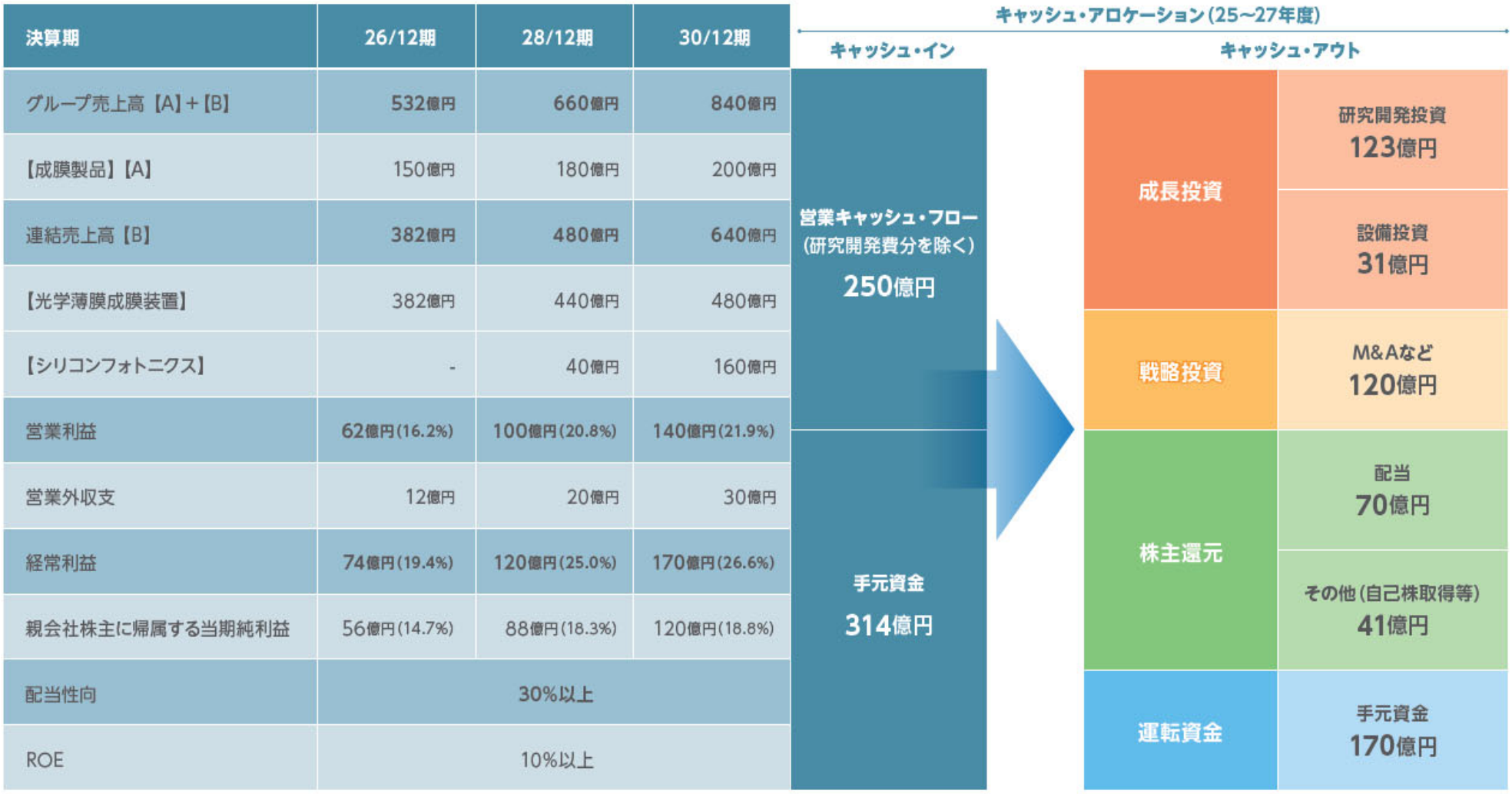
© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved

中期経営目標は親会社株主に帰属する当期純利益率15%以上

図表19:オプトランの中期経営目標とキャッシュ・アロケーション(25~27年度)

中期経営目標 ( )内は利益率

決算期	26/12期	28/12期	30/12期
グループ売上高【A】+【B】	532億円	660億円	840億円
【成膜製品】【A】	150億円	180億円	200億円
連結売上高【B】	382億円	480億円	640億円
【光学薄膜成膜装置】	382億円	440億円	480億円
【シリコンフォトニクス】	-	40億円	160億円
営業利益	62億円(16.2%)	100億円(20.8%)	140億円(21.9%)
営業外収支	12億円	20億円	30億円
経常利益	74億円(19.4%)	120億円(25.0%)	170億円(26.6%)
親会社株主に帰属する当期純利益	56億円(14.7%)	88億円(18.3%)	120億円(18.8%)
配当性向	30%以上		
ROE	10%以上		



*2026年より「親会社株主に帰属する当期純利益率15%以上」「連結配当性向30%以上」を中期経営目標に設定しています。
*創出した利益を株主還元と成長投資へ配分し、持続的な価値創造サイクルを構築しています。
*1株当たり年間配当金は52円(2024年)→54円(2025年)→56円(2026年計画)へ継続的に引き上げ、総還元性向は過去2年連続で100%を超えています。

© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved



© OPTORUN Co., Ltd. 2026, All rights reserved